

厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)

総合 研究報告書

軽度認知障害の人における進行予防と精神心理的支援のための手引き作成と介入研究

研究代表者 櫻井 孝

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 研究所 研究所長

**研究要旨**

**研究目的：**軽度認知障害(MCI)は、認知症のハイリスク群であり、認知症への進行を予防するため、ライフスタイルの改善や精神的支援が必要である。アルツハイマー型認知症の病態修飾薬は開発されたものの、実際は進行遅延のための十分な指導を受けず、置き去りにされているケースがみられる。そこで本研究班は、MCI の効果的な支援方法を確立するために以下の2つの研究を行う。①手引きの作成：MCI の進行予防・心理的支援について文献調査を行い、エビデンスに基づいた手引きを作成する、②手引きを用いた介入研究：MCI の人に対する手引きに沿った指導を12か月間行う介入研究により、手引きによる啓発と支援の実現可能性および介入の効果を明らかにする。

**研究方法・結果：**研究目的に記載した2つの研究実施事項に即して経過を記載する。

①手引きの作成：研究開始時～令和4年度前半にかけ、1. 当事者へのインタビューや専門家会議を通じた Patient Question の策定、2. 班員による第一稿の執筆、3. Clear Communication Index を活用した改訂、と手順を踏んで手引きの初版を得た。令和4年9月から令和5年8月に実施された介入研究にて手引きを活用した教室を運営することで、MCI 当事者らからの意見を集積し、99か所の改訂ポイントを同定した。介入研究終了後(令和5年8月～)より改訂を実施し、手引きの第2版を完成させた。さらに、手引きのエッセンスをまとめた簡易版とブラウザで閲覧可能なweb版も作成した。

②手引きを用いた介入研究：令和4年4月より準備を進め、同年9月から合計38名を対象者として介入が開始された。令和5年8月までに34名(89.4%)の参加者が全24セッションを完遂した。主要評価項目である解析対象者(N=37)のMoCA-Jの変化量は1.2点(介入前：21.9点、介入後：23.3点)であり、統計学的有意な改善を認めた( $p=0.007$ )。外部対照群と傾向スコアマッチングした対象を用いた解析においても、介入群は外部対照群と比較して有意なMoCA-Jの改善を認めた( $P<0.001$ )。

**まとめ：**本研究では、MCI 進行予防のための実践的な介入方法を提案すべく、「手引きの作成」と「手引きを用いた介入の効果判定」を2つの柱として遂行した。MCI の進行予防に関するエビデンスが体系だってまとめられている手引きは他に類を見ず、当事者や家族のリテラシー向上に大きく寄与する。また、これらを活用した介入の有効性が明らかとなったため、全国で認知症予防教室のために活用されることが期待される。

## 研究分担者

### 所属機関名及び職名

島田 裕之・国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センターセンター長

大塚 礼・国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター・老化疫学研究部・部長

大沢 愛子・国立長寿医療研究センター・リハビリテーション科部・リハビリテーション科・医長

山田 実・筑波大学・人間系・教授

清家 理・立命館大学・スポーツ健康科学部・教授

木下 文恵・東海国立大学機構 名古屋大学 名古屋大学医学部附属病院・先端医療開発部・病院講師

藤原 佳典・東京都健康長寿医療センター・研究所・研究副所長

鈴木 宏幸・東京都健康長寿医療センター・研究所・研究副部長

山下 真里・東京都健康長寿医療センター・研究所・研究員

## A. 研究目的

軽度認知障害(MCI)は、認知症のハイリスク群であり、認知症への進行を予防するため、ライフスタイルの改善や精神的支援が必要である。アルツハイマー型認知症の病態修飾薬は開発されたものの、実際は進行遅延のための十分な指導を受けず、置き去りにされているケースがみられる。そこで本研究班は、MCIの人の認知機能低下抑制(進行予防)に向けた対策の確立と普及を目指し、以下の2つの研究を行う。①手引

きの作成：MCIの進行予防・心理的支援について文献調査を行い、エビデンスに基づいた手引きを作成する、②手引きを用いた介入研究：MCIの人に対する手引きに沿った指導を12か月間行う介入研究を実施し、手引きによる啓発と支援の実現可能性を検証し、認知機能や行動変容をアウトカムとした介入の効果を明らかにする。

## B. 研究方法

### 1. 手引きの作成

手引きの初版は初年度(令和3年度)から2年目(令和4年度)の前半にかけて作成した。原稿は①PQ(Patient Question)の作成、②MCI当事者や家族に対するヒアリングに基づくPQの妥当性検証、③専門家による初稿の執筆、④CCI(Clear Communication Index)に基づくクオリティチェックと改訂、の手続きを経て執筆された。なお、原稿作成の一連の手順は論文にまとめ、学術雑誌に報告した(Kuroda Y, et al., Health Expect, 2023)。手引きのデザインの作成にあたり京都精華大学デザイン学科の伊藤ガビン氏の参加を求め、高齢者の特性に配慮したデザインとした。

また、手引きを用いたMCIの人に対する支援を見据え、ユーザビリティ向上と情報の補完を目的とした関連資料(生活ノートとアブストラクトテーブル集)を作成した。生活ノートは日々の体重、血圧、歩数、身体活動、食事摂取状況、認知的活動や社会参加状況などについて記載できる様式となっている。見開き1ページで1週間分記載し、1冊で52週(1年間)が完了する形式をとっている。大きさや質感は手引きの本体とそろえ、親しみやすいデザインとした。アブ

ストラクチャータブル集は手引きに引用した論文の要旨をまとめたものであり、掲載する論文の選定基準や記載方法も標準化を行った。

完成した手引きの初版および生活ノートは以下に記載する介入研究に使用した（2.4. 介入プログラムを参照）。介入を遂行する中で参加者（MCI 当事者）やその家族、補助スタッフから手引きや生活ノートに記載された内容のわかりにくい点や記載が不足している点、全般的に使いにくい点について情報を収集した。一つ一つの質問に対して研究事務局にて重要度分類を行い、重要であるとされた質問は班員へ展開するとともに最新のエビデンスを反映した回答を作成した。また、これらの質問は研究者1名がコーディングを行い、「表現上の不備」、「補足説明の希望」、「ユーザビリティ」、「誤字脱字」の4種類に分類した。なお、「表現上の不備」は記載されている事項が一般になじみの無かったり専門性の高い表現がされていたりしたために理解が十分に得られなかったもの、「補足説明の希望」はそもそも前提としている知識の提供が不十分なために内容が理解できなかったものである。

これらのポイントは介入研究終了後に改めて集計、精査され、手引きに改訂を加えることで手引きおよび生活ノートの第2版を作成した。さらに、手引きの普及を補助する目的に手引きのエッセンスのみをまとめた「簡易版ハンドブック」とブラウザで閲覧可能な「web版のハンドブック」も作成した。

## 2. 介入研究

手引きによる啓発と支援の実現可能性を検証し、認知機能や行動変容をアウトカムとした介入の効果を明らかにすることを目的に、令和4年9月～令和5年8月の12か月間において介入研究を実施した。令和4年当初より研究デザインの策定、データマネジメントプランの作成、介入プログラムの構築と指導員向けの研修、対象者の選定とリクルートを行い、令和5年8月には計画通り全ての介入が完了している。

### 2.1. 研究デザイン

研究デザインは多機関共同単群介入試験である。研究参加者に対して12か月間の介入を実施した前後でアウトカムを取得する。なお、研究フィールドは愛知県（責任者：櫻井孝）と神奈川県（責任者：藤原佳典）の2箇所とした。

### 2.2. 対象症例

以下の(1)–(3)の基準を全て満たした者を対象とした。

- (1) 登録時の年齢が65歳以上86歳未満の者
  - (2) 軽度認知障害を有する者(MoCA-Jの得点が26点未満の場合と定義)
  - (3) 文書による研究参加への同意を得た者
- なお、登録目標症例数は以下に示す根拠を基に2つの施設の合計で33例とした。

#### ※症例数の設定根拠

介入によってMoCA-Jのスコアが $2.2 \pm 2.9$ 改善したとの先行研究(Nara, 2018)を参考に、本研究においても同程度の改善を見込む。 $\alpha$ =両側0.05、検出力95%としたとき必要なサンプルサイズは26例であるが、脱落率(20%)を考慮し、33例の登録を目標とす

る。

## 2.3. アウトカム

### ○主要アウトカム

初回評価時点と12か月後評価時点までのMoCA-Jの変化量

### ○副次アウトカム

- (1) 初回評価時点から6、12か月後評価時点までの身体活動量の変化量
- (2) 初回評価時点から6、12か月後評価時点までの基本的日常生活活動、手段的日常生活活動の変化量
- (3) 初回評価時点から6、12か月後評価時点までの食物多様性、栄養状態の変化量
- (4) 初回評価時点から6、12か月後評価時点までの抑うつ、健康関連QOLの変化量
- (5) 初回評価時点から6、12か月後評価時点までの社会参加の変化
- (6) 初回評価時点から6、12か月後評価時点までの行動変容指標の変化
- (7) 6、12か月後評価時点における教室参加の満足度

## 2.4. 介入プログラム

対象者は研究班が開発した手引きに沿って、生活習慣病の管理、定期的な運動の促し、食事摂取の改善、社会参加、認知機能訓練、心理教育から構成されるプログラムを受ける。介入期間は12か月間とし、その間2週に1回の頻度で行われるグループ教室(合計24セッション)に参加するとともに、生活ノートを用いた日々の生活のセルフモニタリングを行う。なお、手引きを用いた指導内容の標準化のため、研究代表者、研究責任者、研究分担者、または研究事務局が実習形式による指導員の育成を行うこと

とした。

グループ教室の各セッションは90分間とし、60～75分間の運動と15分間のグループワーク(手引きの読み合わせ)もしくは30分間の認知行動療法(CBT)からなる。

### 2.4.1. 運動プログラム

対象者は、前述のグループ教室にて看護師・保健師・理学療法士・健康運動指導士等による運動教室(有酸素運動、筋力トレーニング、運動と認知課題を組み合わせた二重課題運動)に参加する。運動プログラムの実施方法は動画を用いてある程度規定するが、詳細な内容、実施順番等は、現場で実際に運動指導を行う指導者が共通の研修資料(認知症予防運動プログラム コグニサイズ®入門:ハイブリッドDVDつき)などを基に判断する。

教室での運動の他に、週2～3回のホームエクササイズの実施を推奨する。その際、運動への動機づけ及び身体活動量の向上を図るため、活動量計及び活動量記録用紙を利用した身体活動のセルフモニタリングを実施する。活動量記録用紙には、目標の達成を定めた上で、その日の歩数、運動の実施の有無、実施した運動の内容等を記載する。また、メモ欄に日々の食事内容や体重等、生活に関する情報をあわせて記録してもらう。活動量記録用紙は、運動介入プログラムを実施するたびに確認し、効果的な運動方法や活動量向上の方法、具体的な活動量の目標をフィードバックする。

### 2.4.2. 手引きの読み合わせ

指導員が手引きに記載の内容に沿って認知症予防に関する栄養、運動、認知訓練、

生活習慣、疾病、精神心理支援について講義を行う。全 24 回のセッションのうちハンドブックの読み合わせに 11 セッションを充て、9 ドメインから設定された 38 の PQ を網羅できる構成としている。1 回の教室ではひとつのテーマを取り扱うこととし、10 分程度の講義と 5 分程度のグループディスカッションからなる。グループディスカッションでは講義の内容のうち、理解できなかったもの、自己の生活状況の振り返り、その他感想などについて意見交換をするとともに、所定の用紙に記載をする。これらの内容は集計し、手引きの改訂の際の資料として活用した。

#### 2.4.3. MCI を対象としたグループ CBT

手引きで学んだ認知症予防に有効な生活習慣や運動を定着化させるためには、そこに至るまでの心理的負担へのサポートが必要である。また、MCI に伴う心理的問題に対する支援は、進行予防と同等に重要な課題であるが、一方向的な情報提供だけでは不十分である。そこで、慶応義塾大学医学部(田島美幸、原祐子)の協力を得て、MCI の人の特徴を考慮した認知行動療法の要素を取り入れたグループワークプログラム(GCBT for MCI)を開発した。

GCBT for MCI は、月 1 回 30 分程度、全 12 回から構成される。プログラムの内容は、「#1 導入」「#2, #7 目標設定(長期目標と短期目標を決める)」「#3 忘れる問題(行動のし忘れへの対処)」「#4 時間の使い方問題(運動の時間が確保できない)」「#5 気が乗らない問題」「#6 サポートマップづくり(身の回りのサポート資源を見直す)」といった内容を行い、健康的な生活習慣の定着化を

阻害する問題解決を中心に作成した。また、参加者が GCBT for MCI で得たスキルや知識を活用できるように、「#8~#12 応用」を計画した。

#### (倫理面への配慮)

MCI 進行予防のための「手引き」の作成は、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の適用外である。そのため、国立長寿医療研究センター倫理・利益相反委員会において、利益相反のみを申告した。令和 4 年 9 月から開始の介入研究に関しては倫理申請を行い、承認を得ている(課題番号:No. 1603-4、承認日:令和 5 年 2 月 14 日)。

### C. 研究結果

#### 1. 手引きの作成

介入研究を遂行する中で計 99 件の質問が参加者、家族および研究補助員から寄せられた。質問および回答を一部抜粋し、巻末の表 1 にまとめた。これらを整理、精査し、手引きと生活ノートそれぞれの第 2 版を作成した(図 1-2)。

具体的な成果物として、手引き本体の第 2 版、生活ノートの第 2 版、簡易版ハンドブック(図 3)、web 版のハンドブック(図 4)、アブストラクトテーブル集(図 5)認知行動療法ガイドブックの 5 点がある。これらの成果物は厚生労働省、国立長寿医療研究センター、東京都健康長寿医療センターの Web サイトに掲載している(一部掲載準備中)。

掲載後から多数の反響があり、2024 年 4 月現在、151 件の問い合わせ(個人・法人問わず)が事務局に寄せられた。

## 2. 介入研究

### 2.1. 対象者特性

愛知フィールドでは、国立長寿医療研究センター病院 もの忘れセンターへの通院歴がある方のうち、除外基準を満たす方、他の研究に参加中の方、遠方に在住の方を除いた 143 名に対して案内状を送付した。そのうちレスポンスのあった 23 名に適格性の評価 (MoCA-J による認知機能のスクリーニングを含む) を実施した。その後、MoCA-J の得点が 26 点以上であった 1 名と研究開始時点で要介護認定がされていた 2 名が除外され、合計 20 名にて介入研究が開始された。神奈川フィールドでは、川崎市で実施している健康講座の参加者全員に対して案内状を配布し、レスポンスがあった方のうち 41 名に対して適格性の評価を実施した。その後、MoCA-J の得点が 26 点以上であった 14 名と抽選により 9 名が除外され、合計 18 名にて介入研究が開始された。

愛知フィールドにおける参加者は年齢 79.96 歳、10 名 (50%) が男性であり、MoCA-J の点数は 30 点満点中 20.05 点であった。一方、神奈川フィールドでは年齢 77.78 歳、男性 6 名 (33%)、MoCA-J の得点は 23.72 点であった。総じて、愛知フィールドと比較して神奈川フィールドの参加者は年齢が若く、認知機能が比較的保たれている傾向であった (表 2)。

### 2.2. 教室参加率と有害事象

参加者全体における介入フローを巻末の図 6 に示す。介入終了までにモチベーションの低下 (N=3) および腰痛の悪化 (N=1) により 4 名がドロップアウトし、34 名が最終評

価まで完遂した。

介入期間における有害事象 (Common terminology criteria for adverse events, CTCAE における Grade3 以上を定義) は 4 件 (左鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下手術、聴神経腫瘍に対するガンマナイフ、左大腿骨骨折、脊柱管狭窄症に伴う入院) であり、全て本研究との因果関係は認められなかった。有害事象の詳細な内容については巻末の表 3 にまとめた。

### 2.3. 認知機能に対する効果

参加者のうち、グループ教室へ一回以上参加したもの (ただし、重大な研究計画書違反があったものは除く) を Full analyses set と定義し、主解析における解析対象者とした。MoCA-J の変化量は 1.2 点 (介入前: 21.9 点、介入後: 23.3 点) であり、統計学的有意な改善を認めた ( $p=0.007$ )。また、外部対照群※と傾向スコアマッチングした対象を用いた解析 (介入群 N=18, 対照群 N=18) においても、介入群は外部対照群と比較して有意な MoCA-J の改善を認めた ( $P<0.001$ )。

#### ※外部対照群の詳細

J-MINT 研究 (MCI 高齢者を対象とした 18 か月間の RCT) における対照群のうち、フォローアップ研究 (18 か月以降、12 か月ごとに評価を実施) の参加に同意が得られたものを外部対照群とした。本研究においては外部対照群の 18 か月評価から 30 か月評価までの 1 年間のデータを用いた。なお、MoCA-J の測定に欠損がある場合や該当期間においてなんらかの介入を受けていることが明らかかな場合は解析から除外した。

## 2.4. その他の評価項目

解析対象者における歩行速度、握力、BMI、食物多様性、GDS-15の12か月間の変化は表4のとおり。これらの項目に対して12か月間で統計学的に有意な変化は認められなかった。

教室参加による満足度は①教室全体に対する満足度、②運動に対する満足度、③二重課題運動プログラムに対する満足度、④手引きの読み合わせに対する満足度、⑤グループCBTに対する満足度、⑥配布物に対する満足度、の6項目に対し、それぞれ1点：不満、2点：やや不満、3点：やや満足、4点：満足の4件法で評価した。それぞれの項目の平均点は3.68点、3.57点、3.65点、3.24点、3.11点、3.62点であり、総じて高い満足度が得られた（表5）。

## D. 考察

本研究では、MCI進行予防のための実践的な介入方法を提案すべく、「手引きの作成」と「手引きを用いた介入の効果判定」を2つの柱として遂行した。3年計画の3年目にあたる本年度は手引きを用いた介入によりMCI高齢者の認知機能に与える効果を検証した。また、手引きの第2版（最終版）を完成させた。

MCIは、認知症の前段階であると考えられ、ライフスタイルの改善や精神的支援による進行予防が必要である。一方、MCI当事者、家族、支援者（地域包括支援センターや医療者）などが参照しやすい形で進行予防のためのエビデンスが体系だてまとめられた前例がなく、MCIの方が十分な指導を受けず、置き去りにされているケースが少

なくなかった。本研究が広く普及することで、全国のMCI高齢者の進行予防に大きく寄与すると考えられる。

また、本研究では研究補助員（非専門家）が手引きを活用することで実際にMoCA-Jの点数が改善することを示した。介護予防教室等ではMCI高齢者を適切に指導できるインストラクターは貴重であるが、本研究で作成された手引きを活用することで全国の介護予防教室の質の向上にも寄与できると考えられる。

## E. 結論

本研究により、MCI進行予防のための手引きが完成した。当事者や家族のリテラシー向上に大きく寄与するとともに、全国で実施されている認知症予防教室のために活用されることが期待される。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Sugimoto T, Sakurai T, Akatsu H, Doi T, Fujiwara Y, Hirakawa A, Kinoshita F, Kuzuya M, Lee S, Matsuo K, Michikawa M, Ogawa S, Otsuka R, Sato K, Shimada H, Suzuki H, Suzuki H, Takechi H, Takeda S, Umegaki H, Wakayama S, Arai H, On behalf of the J-MINT investigators, The Japan-multimodal intervention trial for prevention of dementia (J-MINT): the study protocol for an 18-month, multicenter, randomized, controlled

- trial. J Prev Alzheimers Dis. 2021 ; 8 (4) 465-476, doi: 10.14283/jpad.2021.29.
- 2) Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kobayashi K, Kouyama K, Noma H, Ohishi M, Satoh-Asahara N, Shimada H, Sugimoto K, Suzuki S, Takeya Y, Tamura Y, Tokuda H, Umegaki H, Watada H, Yamada Y, Sakurai T, The multi-domain intervention trial in older adults with diabetes mellitus for prevention of dementia in Japan: study protocol for a multi-center, randomized, 18-month controlled trial. Front Aging Neurosci. 2021, Vol. 13 doi:10.3389/fnagi.2021.eCollection 680341.
  - 3) Umegaki H, Sakurai T, Arai H, Active life for brain health. A narrative review of the mechanism underlying the protective effects of physical activity on the brain. Front Aging Neurosci. 2021, Vol. 13 DOI: 10.1111/ggi.14322 eCollection 761674
  - 4) Kurita S, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Ishii H, Shimada H. Computer use and cognitive decline among Japanese older adults: A prospective cohort study. Arch Gerontol Geriatr, 97: 104488, 2021.
  - 5) Makino K, Lee S, Bae S, Chiba I, Harada K, Katayama O, Shinkai Y, Makizako H, Shimada H. Diabetes and Prediabetes Inhibit Reversion from Mild Cognitive Impairment to Normal Cognition. J Am Med Dir Assoc, 22(9): 1912-1918. e2, 2021.
  - 6) 清家 理. 認知症の人の介護者支援の展望. 医学のあゆみ Vol.279 (5) , 407-414. 2021
  - 7) 清家 理. 認知症家族介護者における Well-being 獲得とは. 日本老年医学会雑誌. 2021. 58(3). 353-362.
  - 8) A. Seike, C. Sumigaki, S. Takeuchi, J. Hagihara, N. Mizuno, C. Becker, K. Toba and T. Sakurai. Effectiveness of Group based Education for Informal Caregivers of People with Dementia in Japan: a randomized controlled study. Geriatric and Gerontology International. 2021 Jul; 21(7):561-567.
  - 9) Aya Seike, S. Takeuchi. Team work skills. Self-management: For Individual and Organizational Success. Partridge Publishing, 2021. 25-37.
  - 10) Aya Seike. Self-awareness. Self-management: For Individual and Organizational Success. Partridge Publishing, 2021. 89-100.
  - 11) Ken-ichi Tabei, Naoki Saji, Noriko Ogama, Takashi Sakurai, Hidekazu Tomimoto. Quantitative analysis of white matter hyperintensity: Comparison of magnetic resonance imaging image analysis software. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2022 Jun 9;31(8):106555. doi:



- 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106555
- 12) Matsumoto N, Sugimoto T, Kuroda Y, Uchida K, Kishino Y, Arai H, Sakurai T. Psychological resilience among older Japanese adults with mild cognitive impairment during the COVID-19 pandemic. *Front Psychiatry*. 2022 Jun 10;13:898990. doi:10.3389/fpsy.2022.898990. eCollection 2022.
- 13) Fujisawa C, Saji N, Takeda A, Kato T, Nakamura A, Sakurai K, Asanomi Y, Ozaki K, Takada K, Umegaki H, Kuzuya M, Sakurai T. Early-onset Alzheimer's Disease Associated with Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder. *Alzheimer Dis Assoc Disord* 2022 Jul 18. doi:10.1097/WAD.0000000000000517.
- 14) Tsujimoto M, Suzuki K, Saji N, Sakurai T, Ito K, Toba K ORANGE REGISTRY STUDY GROUP. The first multicentre, prospective, trial-ready cohort for mild cognitive impairment (MCI) in Japan: Organized Registration for the Assessment of dementia by the Nationwide General consortium toward Effective treatment (ORANGE) Registry. *J Alzheimers Dis*, 2022;88(4):1423-1433. doi: 10.3233/JAD-220039.
- 15) Shigemizu D, Asanomi Y, Akiyama S, Higaki S, Sakurai T, Niida S, Ozaki K. Network-based meta-analysis and the candidate gene association studies reveal novel ethnicity-specific variants in MFSD3 and MRPL43 associated with dementia with Lewy bodies. *Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet*. 2022 Jul;189(5):139-150. doi:10.1002/ajmg.b.32908.
- 16) Kuroda Y, Sugimoto T, Satoh K, Suemoto CK, Matsumoto N, Uchida K, Kishino Y, Sakurai T. Factors Associated with Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia During COVID-19. *Int. J. Environ. Res. Public Health*. 2022 Aug 15;19(16):10094. doi: 10.3390/ijerph191610094.
- 17) Yamada Y, Umegaki H, Sugimoto T, Nagae M, Komiya H, Watanabe K, Sakurai T Relationship of creatinine cystatin C ratio with muscle mass and grip strength in memory clinic outpatients. *Exp Gerontol*. 2022 Aug 26;111935. doi: 10.1016/j.exger.2022.111935.
- 18) Kishino K, Sugimoto T, Kimura A, Kuroda Y, Uchida K, Matsumoto N, Saji N, Niida S, Sakurai T. Longitudinal association between nutritional status and behavioral and psychological symptoms of dementia in older women with mild cognitive impairment and early-stage Alzheimer's disease. *Clin Nutr*. 2022 Sep;41(9):1906-1912. doi: 10.1016/j.clnu.2022.06.035. Epub 2022 Jul 2.

- 19) Sugimoto T, Tokuda H, Miura H, Kawashima S, Ando T, Kuroda Y, Matsumoto N, Fujita K, Uchida K, Kishino Y, Sakurai T Time trends (2012-2020) in HbA1c and adherence to the glycemic targets recommended for elderly patients by the Japan Diabetes Society/Japan Geriatrics Society Joint Committee among memory clinic patients with diabetes mellitus. *J Diabetes Investig.* 2022 Sep 20. doi: 10.1111/jdi.13897.
- 20) Sugimoto T, Tokuda H, Miura H, Kawashima S, Ando T, Kuroda Y, Matsumoto N, Fujita K, Uchida K, Kishino Y, Sakurai T. Cross-sectional association of metrics derived from continuous glucose monitoring with cognitive performance in older adults with type 2 diabetes mellitus. *Diabetes Obes Metab* 2022 Sep 9. doi:10.1111/dom.14866. 10.1111/dom.14866.
- 21) Kawade Y, Uchida Y, Sugiura S, Suzuki H, Shimono M, Ito E, Yoshihara A, Kondo I, Sakurai T, Saji N, Nakashima T, Shimizu E, Fujimoto Y, Ueda H. Relationship between cognitive domains and hearing ability in memory clinic patients: how did the relationship change after 6 months of introducing a hearing aid? *Auris Nasus Larynx* accepted. 2022 Sep 26; 0385-8146(22)00206-1. doi: 10.1016/j.anl.2022.09.005. Online ahead of print.
- 22) Nishikimi A, Nakagawa T, Fujiwara M, Watanabe K, Watanabe A, Komatsu A, Yasuoka M, Watanabe R, Naya M, Oshima H, Kitagawa Y, Tokuda H, Kondo I, Niida S, Sakurai T, Kojima M, Arai H. Humoral and cellular responses to the third COVID-19 BNT162b2 vaccine dose in research institute workers in Japan. *J Infect.* 2022 Oct 20;S0163-4453(22)00621-1. doi: 10.1016/j.jinf.2022.10.026. Online ahead of print.
- 23) Yasuno F, Watanabe A, Kimura Y, Yamauchi Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minami H, Nishashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Kasuga K, Ikeuchi T, Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T. Estimation of blood-based biomarkers of glial activation related to neuroinflammation. *Brain Behav Immun Health.* 2022 Nov 5;26:100549. doi:10.1016/j.bbih.2022.100549. eCollection 2022 Dec.
- 24) Hori T, Mizutani D, Onuma T, Okada Y, Kojima K, Doi T, Enomoto Y, Iida H, Ogura S, Sakurai T, Iwama T, Kozawa O, Tokuda H. Relationship between the responsiveness of Amyloid  $\beta$  protein to platelet activation by TRAP stimulation and brain atrophy in patients with diabetes mellitus. *Int. J. Mol. Sci.*

- 2022 Nov 15;23(22):14100. doi: 10.3390/ijms232214100.
- 25) The Japan Geriatrics Society Geriatric Medical Practice Committee, Nomura K, Ebihara S, Ikebata Y, Umegaki H, Ooi K, Ogawa S, Katsuya T, Kobayashi Y, Sakurai T, Miyao M, Yamaguchi K, Akishita M. Japan Geriatrics Society “Statement for the Use of Telemedicine in Geriatric Care—Telemedicine as a Complement to In-person Medical Practice” : Geriatric Medical Practice Committee consensus statement. Geriatr Gerontol Int. 2022 Nov;22(11):913-916. doi: 10.1111/ggi.14490. Epub 2022 Oct 5.
- 26) Suzuki H, Sugiura S, Nakashima T, Teranishi M, Shimono M, Murotani K, Sakurai T, Uchida Y, Saji N. Cognitive impairment is correlated with olfactory identification deficits in older Japanese adults: a cross-sectional study using objective and subjective olfactory measures. Geriatr Gerontol Int. 2022 Nov;22(11):924-929. doi: 10.1111/ggi.14483.
- 27) Yasuno F, Kimura Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minami H, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Watanabe A, Kasuga K, Ikeuchi T, Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T. Involvement of inflammation in the medial temporal region in the development of agitation in Alzheimer’ s disease: An in vivo positron emission tomography study. Psychogeriatrics 2023 Jan;23(1):126-135. doi: 10.1111/psyg.12915. Epub 2022 Nov 20.
- 28) Nomoto K, Hirashiki A, Ogama N, Kamihara T, Kokubo M, Sugimoto T, Sakurai T, Shimizu A, Arai H, Murohara T. Septal E/e’ ratio is Associated with Cerebral White Matter Hyperintensity Progression in Young-old Hypertensive Patients. Circ Rep 2023 Jan 26;5(2):38-45. doi: 10.1253/circrep.CR-22-0104. eCollection 2023 Feb 10.
- 29) Ono R\*, Sakurai T\*, Sugimoto T, Uchida K, Nakagawa T, Noguchi T, Komatsu A, Arai H, Saito T. Mortality Risks and Causes of Death by Dementia Types in a Japanese Cohort with Dementia: NCGG-STORIES (\*co-first author). J Alzheimers Dis. 2023;92(2):487-498. doi: 10.3233/JAD-221290. 2023 Mar 21.
- 30) 櫻井孝 VII 栄養障害を伴う病態・障害の栄養管理 7. 認知機能障害の栄養管理 リハビリテーション医学・医療における栄養管理テキスト p131-134 医学書院 2022年4月25日発行
- 31) 内田一彰、櫻井孝 特集” 認知症+併存疾患” アプローチの最前線 項目:2. 認知症の疫学・病態・検査 南江堂 臨床雑誌「内科」129巻6号 2022年6月1日
- 32) 黒田佑次郎 杉本大貴 櫻井孝 Geriatric Medicine 多因子介入による

- 認知症予防 (J-MINT 研究) 老年医学 7  
2022 Vol.60 ライフサイエンス p629-  
633 2022 年 7 月 1 日発行
- 33) 杉本大貴 櫻井孝 Part3 : 高齢者のフ  
レイルと関連する病態をみる 2. 認知機  
能とフレイル 先端医学社 漢方による  
フレイル対策ガイドブック p49~54  
(2022 年 11 月 30 日)
- 34) 内田一彰 櫻井孝 認知症予防効果が期  
待される食事・食品 特集 認知症の薬  
物治療 臨床精神薬理 Vol.26 No.2  
Feb. 175-182, 2023
- 35) 櫻井孝 特集 : 認知症を取り巻く環境を  
俯瞰する「知の蓄積と新しい技術で次世  
代を切り拓く」治療・ケア 認知症に対  
する非薬物療法 CLINICIAN vol.70.  
No.695 p92-p97 2023 年 3 月 28 日
- 36) 島田裕之. 臨床に役立つ Q&A 1. 認知症予  
防のための運動方法について教えてください. *Geriatric Medicine*, 60(7):  
635-638, 2022.
- 37) Otsuka R, Nishita Y, Nakamura A,  
Kato T, Ando F, Shimokata H, Arai H.  
Basic lifestyle habits and volume  
change in total gray matter among  
community dwelling middle-aged and  
older Japanese adults. *Prev Med*,  
161: 107149 (9pages), 2022
- 38) Otsuka R: Diet, nutrition, and  
cognitive function: A narrative  
review of Japanese longitudinal  
studies. *Geriatr Gerontol Int*, 22:  
825-831, 2022.
- 39) Nakao Y, Kawamura K, Iwase T, Osawa  
A, Maeshima S, Arai H. Decrease in  
six-minute walk distance among frail  
older people. *Geriatr Gerontol Int*.  
23 2023. 248-249  
doi:10.1111/ggi.14555.
- 40) Suzumura S, Ito K, Narukawa R,  
Kawamura, Kamiya M, Osawa A, Kondo.  
Self-exercise training instructional  
items and continuation rates in  
patients with cerebrovascular  
disease post-discharge. *Geriatr  
Gerontol Int*. 23 2023. 251-252. doi:  
10.1111/ggi.14564.
- 41) Kamiya M, Osawa A, Shinoda Y, Hishii  
H, Kondo I. The Current State of  
Family Caregiver Burden and Support  
of Toilet Problems for Elderly with  
Mild Cognitive Impairment and  
Alzheimer' s Disease. *International  
Journal of Urology*. 2023.  
doi: 10.1111/iju.15171.
- 42) Yoshitake M, Maeshima E, Maeshima S,  
Osawa A, Ito N, Ueda I, Kamiya M.  
Olfactory identification ability in  
patients with mild cognitive  
impairment and Alzheimer' s disease.  
*J Phys Ther Sci*. 34. 2022. 710-714.
- 43) Suzumura S, Osawa A, Kanada Y, Maeda  
K, Takano E, Sugioka J, Maeda N,  
Nagahama T, Shiramoto K, Kuno K,  
Kizuka S, Satoh K, Sakurai H, Sano  
Y, Mizuguchi T, Kandori A, Kondo I.  
Finger Tapping Test for Assessing  
the Risk of Mild Cognitive  
Impairment. *Hong Kong J Occup Ther*.  
35. 2022. 137-145. DOI:  
10.1177/15691861221109872.

- 44) Kawamura K, Maeshima S, Osawa A, Arai H. Overarching Goal and Intervention for Healthy Aging in Older People during and after the COVID-19 Pandemic: Impact of Rehabilitation. *COVID-19 Pandemic, Mental Health and Neuroscience - New Scenarios for Understanding and Treatment*. 2022. DOI: 10.5772/intechopen.106787
- 45) Kawamura K, Osawa A, Tanimoto M, Itoh N, Matsuura T, Kondo I, Arai H. Prediction of the possibility of return to home based on frailty assessment at the time of admission to the COVID-19 treatment unit. *Geriatrics & Gerontology International*. 22. 2022. 815-817. <https://doi.org/10.1111/ggi.14460>
- 46) Yoshitake M, Maeshima E, Maeshima S, Sasaki k, Osawa A. Association between cognitive function and olfactory identification ability in community-dwelling older individuals. *J. Phys. Ther. Sci*. 34. 2022. 459-462. <https://doi.org/10.1589/jpts.34.459>
- 47) 前島伸一郎, 神里千瑛, 大沢愛子. 高齢者の認知機能障害に対するリハビリテーション. *Geriatric Medicine*. 60. 2022. 991-996
- 48) 大沢愛子, 前島伸一郎, 伊藤直樹, 植田郁恵, 吉村貴子, 川村皓生, 大高恵莉, 神谷正樹, 佐藤弥生, 近藤和泉, 荒井秀典. 認知症診療および研究に用いられる神経心理学的検査など評価法一覧の作成. *日本老年医学会誌*. 60. 2023. 76-78. <https://doi.org/10.3143/geriatrics.60.76>
- 49) Nishioka S, Fujishima I, Kishima M, Ohno T, Shimizu A, Shigematsu T, Itoda M, Wakabayashi H, Kunieda K, Oshima F, Ogawa S, Fukuma K, Ogawa N, Kayashita J, Yamada M, Mori T, Onizuka S. Association of Existence of Sarcopenia and Poor Recovery of Swallowing Function in Post-Stroke Patients with Severe Deglutition Disorder: A Multicenter Cohort Study. *Nutrients*. 2022 Oct 3;14(19):4115. doi: 10.3390/nu14194115. PMID: 36235767; PMCID: PMC9571320.
- 50) Kunieda Y, Arakawa C, Yamada T, Koyama S, Suzuki M, Ishiyama D, Yamada M, Hirokawa R, Matsuda T, Nio S, Adachi T, Hoshino H, Fujiwara T. Effect of simultaneous dual-task training on regional cerebral blood flow in older adults with amnesic mild cognitive impairment. *Curr Alzheimer Res*. 2022 Jun 27. doi: 10.2174/1567205019666220627091246. Epub ahead of print. PMID: 35761496.
- 51) Kimura Y, Otobe Y, Suzuki M, Masuda H, Kojima I, Tanaka S, Kusumi H, Yamamoto S, Saegusa H, Yoshimura T, Yamada M. The effects of rehabilitation therapy duration on functional recovery of patients with subacute stroke stratified by

- individual's age: a retrospective multicenter study. *Eur J Phys Rehabil Med.* 2022 Oct;58(5):675-682. doi: 10.23736/S1973-9087.22.07581-5. Epub 2022 Sep 1. PMID: 36052892.
- 52) Watanabe D, Yoshida T, Yamada Y, Watanabe Y, Yamada M, Fujita H, Nakaya T, Miyachi M, Arai H, Kimura M. Dose-Response Relationship Between Life-Space Mobility and Mortality in Older Japanese Adults: A Prospective Cohort Study. *J Am Med Dir Assoc.* 2022 Nov;23(11):1869.e7-1869.e18. doi: 10.1016/j.jamda.2022.04.017. Epub 2022 May 28. PMID: 35636462.
- 53) Suzuki M, Kimura Y, Otobe Y, Koyama S, Terao Y, Kojima I, Masuda H, Tanaka S, Yamada M. The effect of care receivers' dysphagia severity on caregiver burden among family caregivers. *Geriatr. Gerontol. Int.* 2022;1-6. <https://doi.org/10.1111/ggi.14468>
- 54) Yamada M, Kimura Y, Ishiyama D, Otobe Y, Suzuki M, Koyama S, Arai H. Combined effect of lower muscle quality and quantity on incident falls and fall-related fractures in community-dwelling older adults: A 3-year follow-up study. *Bone.* 2022 Sep;162:116474. doi: 10.1016/j.bone.2022.116474. Epub 2022 Jun 22. PMID: 35752409.
- 55) Yamada M, Arai H. Recovery from or progression to frailty during the second year of the COVID-19 pandemic. *Geriatr Gerontol Int.* 2022 Aug;22(8):681-682. doi: 10.1111/ggi.14421. Epub 2022 Jun 17. PMID: 35715977; PMCID: PMC9349631.
- 56) Suzuki T, Nishita Y, Jeong S, Shimada H, Otsuka R, Kondo K, Kim H, Fujiwara Y, Awata S, Kitamura A, Obuchi S, Iijima K, Yoshimura N, Watanabe S, Yamada M, Toba K, Makizako H. Are Japanese Older Adults Rejuvenating? Changes in Health-Related Measures Among Older Community Dwellers in the Last Decade. *Rejuvenation Res.* 2021 Feb;24(1):37-48. doi: 10.1089/rej.2019.2291. Epub 2020 Jul 8. PMID: 32498608; PMCID: PMC7891218.
- 57) Suzuki M, Otobe Y, Ichikawa T, Koyama S, Tanaka S, Maetani Y, Masuda H, Shino S, Kimura Y, Yamada M. Gender-specific Characteristics of Social Factors Related to Frequency of Daily Conversation Among Community-dwelling Older Adults: A Cross-sectional Observational Study. *Ageing Int.* 2022 Apr 29:1-18. doi: 10.1007/s12126-022-09494-6. Epub ahead of print. PMID: 35528947; PMCID: PMC9053121.
- 58) Watanabe D, Yoshida T, Yamada Y, Watanabe Y, Yamada M, Fujita H, Nakaya T, Miyachi M, Arai H, Kimura M. Dose-Response Relationship

- Between Life-Space Mobility and Mortality in Older Japanese Adults: A Prospective Cohort Study. *J Am Med Dir Assoc.* 2022 May 28;S1525-8610(22)00328-0. doi: 10.1016/j.jamda.2022.04.017. Epub ahead of print. PMID: 35636462.
- 59) Mori T, Wakabayashi H, Kishima M, Itoda M, Fujishima I, Kunieda K, Ohno T, Shigematsu T, Oshima F, Ogawa N, Nishioka S, Momosaki R, Shimizu A, Saito Y, Yamada M, Ogawa S. Association between Inflammation and Functional Outcome in Patients with Sarcopenic Dysphagia. *J Nutr Health Aging.* 2022;26(4):400-406. doi: 10.1007/s12603-022-1769-9. PMID: 35450997.
- 60) Wakabayashi H, Kishima M, Itoda M, Fujishima I, Kunieda K, Ohno T, Shigematsu T, Oshima F, Mori T, Ogawa N, Nishioka S, Momosaki R, Yamada M, Ogawa S. Prevalence of Hoarseness and Its Association with Severity of Dysphagia in Patients with Sarcopenic Dysphagia. *J Nutr Health Aging.* 2022;26(3):266-271. doi: 10.1007/s12603-022-1754-3. PMID: 35297470; PMCID: PMC8883003.
- 61) Yamada M, Arai H. Implication of Exercise for Healthy Longevity in Older People. *Topics in geriatrics rehabilitation* 2022; 38(2):95-100. doi: 10.1097/TGR.0000000000000350
- 62) Sawa R, Tanaka B, Yamamoto J, Yamada M. Environmental hazards as risk factors for trips and slips at home among Japanese older people: A pilot study toward the development of a self-assessment tool for the home environment. *Geriatr Gerontol Int.* 2022 Mar 1. doi: 10.1111/ggi.14365. Epub ahead of print. PMID: 35233889.
- 63) Kojima I, Tanaka S, Otobe Y, Suzuki M, Koyama S, Kimura Y, Ishiyama D, Maetani Y, Kusumi H, Terao Y, Abe R, Nishizawa K, Yamada M. What is the optimal nutritional assessment tool for predicting decline in the activity of daily living among older patients with heart failure? *Heart Vessels.* 2022 Feb 5. doi: 10.1007/s00380-022-02033-y. Epub ahead of print. PMID: 35122493.
- 64) Yamada M, Lim JY, Assantachai P, Tanaka T, Kim M, Lee SY, Lim WS, Arai H. Five-repetition sit-to-stand test: End with the fifth stand or sit? *Geriatr Gerontol Int.* 2022 Feb 7. doi: 10.1111/ggi.14358. Epub ahead of print. PMID: 35130582.
- 65) M. Komori, K. Takemura, Y. Minoura, A. Uchida, R. Iida, A. Seike, Y. Uchida. Extracting multiple layers of social networks through a 7-month survey using a wearable device: a case study from a farming community in Japan. *J Comput Soc Sc* 5, 2022.1069-1094
- 66) M. Komori, K. Takemura, Y. Minoura, A. Uchida, R. Iida, A. SEIKE, Y. Uchida. (Relationship Between Multiple-

- Layered Social Networks and Pro-Community Attitudes in a Farming Community). Human Communication Group. 2022
- 67) Seino S, Kitamura A, Abe T, Taniguchi Y, Murayama H, Amano H, Nishi M, Nofuji Y, Yokoyama Y, Narita M, Shinkai S, Fujiwara Y. Dose-response relationships of sarcopenia parameters with incident disability and mortality in older Japanese adults. *J Cachexia Sarcopenia Muscle*. 2022 Apr;13(2):932-944. doi: 10.1002/jcsm.12958. Epub 2022 Feb 25. (査読あり) (IF: 12.910、2020)
- 68) Abe T, Kitamura A, Yamashita M, Kim H, Obuchi S, Ishizaki T, Fujiwara Y, Awata S, Toba K. Simple screening models for cognitive impairment in community settings: The IRIDE Cohort Study. *Geriatr Gerontol Int*. 2022 Apr;22(4):292-297. doi: 10.1111/ggi.14360. Epub 2022 Feb 20. (査読あり) (IF: 2.730、2020/2021)
- 69) Abe T, Nofuji Y, Seino S, Hata T, Narita M, Yokoyama Y, Amano H, Kitamura A, Shinkai S, Fujiwara Y. Physical, social, and dietary behavioral changes during the COVID-19 crisis and their effects on functional capacity in older adults. *Arch Gerontol Geriatr*, 2022 July-August;101:104708. doi: 10.1016/j.archger.2022.104708. (査読あり) (IF: 4.163、2022/2023)
- 70) Hata T, Seino S, Yokoyama Y, Narita M, Nishi M, Hida A, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Interaction of eating status and dietary variety on incident functional disability among older Japanese adults. *J Nutr Health Aging*. 2022;26(7):698-705. doi: 10.1007/s12603-022-1817-5. (査読あり) (IF: 4.075、2021/2022)
- 71) Taniguchi Y, Yokoyama Y, Ikeuchi T, Mitsutake S, Murayama H, Abe T, Seino S, Amano H, Nishi M, Hagiwara Y, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Pet Ownership-Related Differences in Medical and Long-Term Care Costs among Community-Dwelling Older Japanese. *PLoS One*. (in press). (査読あり) (IF: 3.73、2021/2022)
- 72) Ikeuchi T, Taniguchi Y, Abe T, Yokoyama Y, Seino S, Narita M, Nishi M, Amano H, Nofuji Y, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Pet Ownership and the Future Time Perspective of Older Adults. *GeroPsych*. (in press). doi: 10.1024/1662-9647/a000298. Advance online publication. (査読あり) (IF: 1.359、2020/2021)
- 73) Nemoto Y, Nonaka K, Kuraoka M, Murayama S, Tanaka M, Matsunaga H, Murayama Y, Murayama H, Kobayashi E, Inaba Y, Watanabe S, Maruo K, Fujiwara Y. Effects of intergenerational contact on social capital in community-dwelling adults aged 25-84 years: a non-randomized



- community-based intervention. BMC Public Health. 2022 Sep 24;22(1):1815. doi: 10.1186/s12889-022-14205-6. (査読あり) (IF: 4.135、2021)
- 74) Nemoto Y, Sakurai R, Matsunaga H, Hasebe M, Fujiwara Y. Examining health risk behaviors of self-employed and employed workers in Japan: a cross-sectional study. Public Health. 2022 Oct;211:149-156. doi: 10.1016/j.puhe.2022.07.021. (査読あり) (IF: 4.984、2021)
- 75) Sakurai R, Kawai H, Suzuki H, Ogawa S, Yanai S, Hirano H, Ito M, Ihara K, Obuchi S, Fujiwara Y. Cognitive, physical, and mental profiles of older adults with misplaced self-evaluation of hearing loss. Arch Gerontol Geriatr. 2022 Sep 11;104:104821. doi: 10.1016/j.archger.2022.104821. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 4.163、2022/2023)
- 76) Osuka Y, Okubo Y, Nofuji Y, Sasai H, Seino S, Maruo K, Fujiwara Y, Oka H, Shinkai S, Lord SR, Kim H. Modifiable intrinsic factors related to occupational falls in older workers. Geriatr Gerontol Int. 2022 Apr;22(4):338-343. doi: 10.1111/ggi.14370. Epub 2022 Mar 9. (査読あり) (IF: 2.730、2020/2021)
- 77) 小林江里香、植田拓也、高橋淳太、清野諭、野藤悠、根本裕太、倉岡正高、藤原佳典. 「通いの場」の類型別にみた参加者の多様性と住民の主体性：高齢者が参加する都市部の自主グループ調査から. 日本公衆衛生雑誌. 2022;69(7):544-553. (査読あり)
- 78) Ejiri M, Kawai H, Fujiwara Y, Ihara K, Watanabe Y, Hirano H, Kim H, Obuchi S. Determinants of new participation in sports groups among community-dwelling older adults: Analysis of a prospective cohort from The Otassha Study. PLoS One. 2022 Oct 4;17(10):e0275581. doi: 10.1371/journal.pone.0275581. eCollection 2022. (査読あり) (IF:3.24、2021/2022)
- 79) Fujita A, Ihara K, Kawai H, Obuchi S, Watanabe Y, Hirano H, Fujiwara Y, Takeda Y, Tanaka M, Kato K. A novel set of volatile urinary biomarkers for late-life major depressive and anxiety disorders upon the progression of frailty: a pilot study. Discov Ment Health. 2022 Oct 27. doi: 10.1007/s44192-022-00023-0. (査読あり) (IF: 1.573、2021/2022)
- 80) Kugimiya Y, Iwasaki M, Ohara Y, Motokawa K, Edahiro A, Shirobe M, Watanabe Y, Taniguchi Y, Seino S, Abe T, Obuchi S, Kawai H, Kera T, Fujiwara Y, Kitamura A, Ihara K, Kim H, Shinkai S, Hirano H. Association between sarcopenia and oral functions in community-dwelling older adults: a cross-sectional study. J Cachexia Sarcopenia Muscle.

- (in press). (査読あり) (IF: 12.91、2021/2022)
- 81) Murayama H, Takase M, Watanabe S, Sugiura K, Nakamoto I, Fujiwara Y. Employment in old age and all-cause mortality: A systematic review. *Geriatr Gerontol Int*. 2022 Sep;22(9):705-714. doi: 10.1111/ggi.14449. Epub 2022 Aug 4. (査読あり) (IF: 3.387、2021/2022)
- 82) Kera T, Kawai H, Ejiri M, Ito K, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S. Comparison of Characteristics of Definition Criteria for Respiratory Sarcopenia—The Otassya Study. *Int J Environ Res Public Health*. 2022 Jul 13;19(14):8542. doi: 10.3390/ijerph19148542. (査読あり) (IF: 4.614、2021/2022)
- 83) Nishita Y, Makizako H, Jeong S, Otsuka R, Kim H, Obuchi S, Fujiwara Y, Ohara Y, Awata S, Yamada M, Iijima K, Shimada H, Suzuki T. Temporal trends in cognitive function among community-dwelling older adults in Japan: Findings from the ILSA-J integrated cohort study. *Arch Gerontol Geriatr*. 2022 Sep-Oct;102:104718. doi: 10.1016/j.archger.2022.104718. Epub 2022 May 11. (査読あり) (IF: 4.163、2022/2023)
- 84) Ogawa S, Suzuki H, Takahashi T, Fujita K, Murayama Y, Sato K, Matsunaga H, Motohashi Y, Fujiwara Y. Suicide Prevention Program with Cooperation from Senior Volunteers, Governments, and Schools: A Study of the Intervention Effects of “Educational Lessons Regarding SOS Output. *Children (Basel)*. 2022 Apr 11;9(4):541. doi: 10.3390/children9040541. (査読あり) (IF: 2.835、2021/2022)
- 85) Ejiri M, Kawai H, Kumiko Ito, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Association of social disengagement with health status and all-cause mortality among community-dwelling older adults: evidence from the Otassha study. *Sci Rep*. 2022 Oct 26;12(1):17918. doi: 10.1038/s41598-022-22609-y. (査読あり) (IF: 4.996、2021/2022)
- 86) Iwasaki M, Maeda I, Kokubo Y, Tanaka Y, Ueno T, Ohara Y, Motokawa K, Hayakawa M, Shirobe M, Edahiro A, Kawai H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Watanabe Y, Obuchi S, Hirano H. Standard Values and Concurrent Validity of a Newly Developed Occlusal Force-Measuring Device among Community-Dwelling Older Adults: The Otassha Study. *Int J Environ Res Public Health*. 2022 May 4;19(9):5588. doi: 10.3390/ijerph19095588. (査読あり) (IF: 4.614、2021/2022)
- 87) Wang Y, Toyama T, Hashimoto Y, Kawai H, Azuma K, Shiraya T, Kato S, Watanabe Y, Hirano H, Fujiwara Y,

- Ihara K, Kim H, Numaga J, Obuchi S, Ueta T. Association of prediabetes with retinal microvasculature on swept-source optical coherence tomography angiography in the elderly: OTASSHA study. *Retina*. 2022 Jun 1;42(6):1130-1136. doi: 10.1097/IAE.0000000000003416. (査読あり) (IF: 3.975、2021/2022)
- 88) Ohara Y, Iwasaki M, Shirobe M, Kawai H, Edahiro A, Motokawa K, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S, Watanabe Y, Hirano H. Xerostomia as a key predictor of physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: a five year prospective cohort study from The Otassha Study. *Arch Gerontol Geriatr*. 2022 Mar-Apr;99:104608. doi: 10.1016/j.archger.2021.104608. Epub 2021 Dec 9. (査読あり) (IF: 4.163、2021/2022)
- 89) Masugi Y, Kawai H, Ejiri M, Hirano H, Fujiwara Y, Tanaka T, Iijima K, Inomata T, Obuchi S. Early strong predictors of decline in instrumental activities of daily living in community-dwelling older Japanese people. *PLoS One*. 2022 Apr 5;17(4):e0266614. doi: 10.1371/journal.pone.0266614. eCollection 2022. (査読あり) (IF: 3.240、2020)
- 90) 野中久美子、村山洋史、村山幸子、高橋知也、小林江里香、藤原佳典、高齢者を対象としたサロンの活動休止に影響する要因の検討: 都市部での検討. *応用老年学*. 2022;16(1):49-57. (査読あり)
- 91) Fujiwara Y, Kondo K, Koyano W, Murayama H, Shinkai S, Fujita K, Arai H, Horiuchi. Social Frailty as Social Aspects of Frailty: Research, Practical Activities, and Prospects. *Geriatr Gerontol Int*. (in press). (査読あり) (IF: 3.387、2021/2022)
- 92) 藤原佳典. 「フレイルの社会的側面」の研究および実践活動のあり方. *老年社会科学*. 2022;44(1):51-58.
- 93) 藤原佳典. SDH とフレイル・サルコペニア. *リハビリテーション栄養*. 2022;10(6):222-227. (査読なし)
- 94) 横山友里、藤原佳典. 地域高齢者のサルコペニア予防のための栄養・食事. *マグネシウム*. (印刷中) (査読なし)
- 95) 植田拓也、藤原佳典. 地域包括ケアにおける介護予防の役割. *老年科*. 2022;5(3):209-213.
- 96) 植田拓也、倉岡正高、清野諭、小林江里香、服部真治、澤岡詩野、野藤悠、本川佳子、野中久美子、村山洋史、藤原佳典. 介護予防に資する「通いの場」の概念・類型および類型の活用方法の提案. *日本公衆衛生雑誌*. 2022;69(7):497-504. (査読あり)
- 97) Suzuki H, Sakuma N, Kobayashi M, Ogawa S, Inagaki H, Edahiro A, Ura C, Sugiyama M, Miyamae F, Watanabe Y, Shinkai S, Awata S. Normative Data of the Trail Making Test Among Urban Community-Dwelling Older Adults in Japan. *Front. Aging*

- Neurosci., 14:832158. (原著、IF;5.702), (査読あり)
- 98) 山下真里、岡村毅、宇良千秋、杉山美香、中山莉子、宮前史子、小川まどか、稲垣宏樹、枝広あや子、多賀努、津田修治、井藤佳恵、栗田主一. 認知機能低下を抱えた地域在住高齢者のインフォーマル・サポートと精神的健康に関する質的研究. 日本認知症ケア学会誌. 2022;20(4):560-571. (査読あり)
- 99) 杉山美香、岡村毅、井藤佳恵、山下真里、栗田主一. 妄想性障害をもつ高齢女性への地域におけるインフォーマルな医療外の支援の実際. 老年精神医学雑誌, 2022;33(5):497-506. (査読あり)
- 100) Yamashita M, Abe T, Seino S, Nofuji Y, Sugawara Y, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Role of personality traits in determining the association between social participation and mental health: A cross-sectional study in Japan. Journal of Health Psychology, First published online June 22, 2022. (査読あり) (IF: 3.789、2021/2022) .
- 101) Ogawa Y, Takase A, Shimmei M, Toshiba S, Ura C, Yamashita M, Okamura T. Meaning of death among care workers of geriatric institutions in a death-avoidant culture: Qualitative descriptive analyses of in-depth interviews by Buddhist priests. PLOS ONE, 2022 Oct 18; doi: <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0276275>. (査読あり) (IF:3.24、2021/2022)
- 102) 山下真里、新開省二. 健康長寿をめざした Well-being : 公衆衛生学・健康科学における新しい考え方. 保健の科学. 2022: 64(5):299-304. (査読なし)
- 103) 山下真里. フレイルにおける心理的アプローチ: 心理職の役割. アンチエイジング医学. 2022. 18 (4):271-275. (査読なし)
- 104) 山下真里、藤原佳典. 社会交流と認知予備能. 老年精神医学雑誌. 2022;33:1042-1048. (査読なし)
- 105) Jeong S, Suzuki T, Miura K, Sakurai T. Incidence of and Risk Factors for Missing Events Due to Wandering in Community-Dwelling Older Adults with Dementia. J Psychiatry Psychiatr Disord. 7 (2023): 38-45 Date:19 May 2023
- 106) Matsumoto N, Kuroda Y, Sugimoto T, Fujita K, Uchida K, Kishino Y, Arai H, Sakurai T. Factors associated with changes in psychological resilience of older adults with mild cognitive impairment during the COVID-19 pandemic. Front Aging Neurosci. 2023 Aug 11;15:1169891. doi: 10.3389/fnagi.2023.1169891. eCollection 2023
- 107) Uchida K, Sugimoto T, Tange C, Nishita Y, Shimokata H, Saji N, Kuroda Y, Matsumoto N, Kishino Y, Ono R, Akisue T, Otsuka R, Sakurai T. Association between reduction of muscle mass and faster declines in

- global cognition among older people: a 4-year prospective cohort study.
- 108) Saji N, Ishihara Y, Murotani K, Uchiyama A, Takeda A, Sakurai T, Matsushita K. Cross-sectional analysis of periodontal disease and cognitive impairment conducted in a memory clinic: the Pearl study J Alzheimers Dis. Published online 2023 Oct 24. Prepublished online 2023 Sep 28. doi: 10.3233/JAD-230742 2023;96(1):369-380.. doi: 10.3233/JAD-230742.
- 109) Sugimoto T, Tokuda H, Miura H, Kawashima S, Omura T, Ando T, Kuroda Y, Matsumoto N, Fujita K, Uchida K, Kishino Y, Sakurai T. Longitudinal association of continuous glucose monitoring-derived metrics with cognitive decline in older adults with type 2 diabetes: a 1-year prospective observational study. Diabetes Obes Metab . 2023 Dec;25(12):3831-3836. doi: 10.1111/dom.15275. Epub 2023 Sep 21.
- 110) Yasuno F, Kimura Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minamia M, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Watanabe A, Kasuga K, Ikeuchi T, Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T. Neuroimaging biomarkers of glial activation for predicting the annual cognitive function decline in patients with Alzheimer's disease. Brain Behav Immun. 2023 Nov;114:214-220. doi: 10.1016/j.bbi.2023.08.027.
- 111) Kuroda Y, Goto A, Sugimoto T, Fujita K, Uchida K, Matsumoto N, Shimada H, Ohtsuka R, Yamada M, Fujiwara Y, Seike A, Hattori M, Ito G, Arai H, Sakurai T. Participatory approaches for developing a practical handbook integrating health information for supporting individuals with mild cognitive impairment and their families. Health Expect. 2023 Sep 19;27(1):e13870. doi: 10.1111/hex.13870.
- 112) Fujisawa C, Umegaki H, Sugimoto T, Nagae M, Nakashima H, Komiya H, Watanabe K, Yamada T, Sakurai T. Relationship Between Non-Cognitive Intrinsic Capacity and Activities of Daily Living According to Alzheimer's Disease Stage. J Alzheimers Dis. 2023;96(3):1115-1127. doi: 10.3233/JAD-230786. Accepted 12 September 2023 | Published: 21 November 2023.
- 113) Sugimoto T, Sakurai T, Noguchi T, Komatsu A, Nakagawa T, Ueda I, Osawa A, Lee S, Shimada H, Kuroda Y, Fujita K, Matsumoto N, Uchida K, Kishino Y, Ono R, Arai H, Saito T. Developing a predictive model for mortality in patients with cognitive impairment. Int J Geriatr Psychiatry. 2023 Nov 01 ;38(11):e6020. doi: 10.1002/gps.6020.
- 114) Kuroda Y, Fujita K, Sugimoto T, Uchida T, Shimazu T, Saito J, Arai

- H, Sakurai T. Feasibility of a Community-Adapted Multi-Domain Intervention for Dementia Prevention among Older Adults: A Research Protocol. *Arch Public Health*. 2023 Oct 31;81(1):191. doi: 10.1186/s13690-023-01205-0.
- 115) Shigemizu D, Fukunaga K, Yamakawa A, Suganuma M, Fujita K, Kimura T, Mushiroda T, Sakurai T, Niida S, Ozaki K. The HLA-DRB1\*09:01-DQB1\*03:03 haplotype is associated with the risk for late-onset Alzheimer's disease in APOE ε 4-negative Japanese adults. *NPJ Aging*. 2024 Jan 2;10(1):3. doi: 10.1038/s41514-023-00131-3.
- 116) Okahashi S, Noguchi T, Ishihara M, Osawa A, Kinoshita F, Ueda I, Kamiya M, Nakagawa T, Kondo I, Sakurai T, Arai H, Saito T. Dyadic art appreciation and self-expression program (NCGG-ART) for people with dementia or mild cognitive impairment and their family caregivers: a feasibility study. *J Alzheimers Dis*. 2024;97(3):1435-1448. doi: 10.3233/JAD-231143.
- 117) Kuroda Y, Sugimoto T, Satoh K, Nakagawa T, Saito T, Noguchi T, Komatsu A, Uchida K, Fujita K, Ono R, Arai H, Sakurai T. Relationship between Mortality and Vitality in Patients with Mild Cognitive Impairment / Dementia: An 8-year Retrospective Study. *Geriatr Gerontol Int*. 2024 Jan 18. doi: 10.1111/ggi.14794.
- 118) Tokuda H, Hori T, Mizutani D, Hioki T, Kojima K, Onuma T, Enomoto Y, Doi T, Matsushima-Nishiwaki R, Ogura S, Iida H, Iwama T, Sakurai T, Kozawa O. Inverse relationship between platelet Akt activity and hippocampal atrophy: A pilot case-control study in patients with diabetes mellitus. *World J Clin Cases*. 2024 Jan 16;12(2):302-313. doi: 10.12998/wjcc.v12.i2.302.
- 119) Uchida K, Sugimoto T, Murotani K, Tsujimoto M, Kishino Y, Kuroda Y, Matsumoto N, Fujita K, Suzuki K, Ono R, Akisue T, Arai H, Toba K, Sakurai T. A combined index using the Mini-Mental State Examination and Lawton Index to discriminate between Clinical Dementia Rating scores of 0.5 and 1: A development and validation study. *J Clin Psychiatry*. in press.
- 120) Uchida K, Sugimoto T, Tange C, Nishita Y, Shimokata H, Saji N, Kuroda Y, Matsumoto N, Kishino Y, Ono R, Akisue T, Otsuka R, Sakurai T. Association between abdominal adiposity and cognitive decline in older adults: a 10-year community-based study. *J Nutr Health Aging*. 2024 Feb 2;28(3):100175. doi: 10.1016/j.jnha.2024.100175.
- 121) Fujita K, Sugimoto T, Noma H, Kuroda Y, Matsumoto N, Uchida K, Kishino Y,

- Sakurai T. Postural control characteristics in Alzheimer's disease, dementia with Lewy bodies, and vascular dementia. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2024 Feb 27;glae061. doi: 10.1093/gerona/glae061.
- 122) Sugimoto T, Sakurai T, Uchida K, Kuroda Y, Tokuda H, Omura T, Noguchi T, Komatsu A, Nakagawa T, Fujita K, Matsumoto N, Ono R, Crane PK, Saito T. Impact of type 2 diabetes and glycated hemoglobin levels within the recommended target range on mortality in older adults with cognitive impairment receiving care at a memory clinic: NCGG-STORIES. *Diabetes Care* 2024 Mar 12:dc232324. doi: 10.2337/dc23-2324. Epub ahead of print.
- 123) Omura T, Inami A, Sugimoto T, Kawashima S, Sakurai T, Tokuda H. Tirzepatide and Glycemic Control Metrics Using Continuous Glucose Monitoring in Older Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: An Observational Pilot Study. *Geriatrics* 2024, 9(2), 27; Published: 26 February 2024.
- 124) Noguchi T, Nakagawa T, Sugimoto T, Komatsu A, Kuroda Y, Uchida K, Ono R, Arai H, Sakurai T, Saito T. Behavioral and psychological symptoms of dementia and mortality risk among people with cognitive impairment: an 8-year longitudinal study from the NCGG-STORIES. *J Epidemiol*. 2024 Mar 23. DOI: <https://doi.org/10.2188/jea.JE20230343>.
- 125) Nagasawa K, Matsumura K, Uchida T, Suzuki Y, Nishimura A, Okubo M, Igeta Y, Kobayashi T, Sakurai T, Mori Y. Global cognition and executive functions of older adults with type 1 diabetes mellitus without dementia. *J Diabetes Investig*. 2024 Mar 25. doi: 10.1111/jdi.14191.
- 126) Sakurai T, Sugimoto T, Akatsu H, Doi T, Fujiwara Y, Hirakawa A, Kinoshita F, Kuzuya M, Lee S, Matsumoto N, Matsuo K, Michikawa M, Nakamura A, Ogawa S, Otsuka R, Sato K, Shimada H, Suzuki H, Suzuki H, Takechi H, Takeda S, Uchida K, Umegaki H, Wakayama S, Arai H: J-MINT study group. The Japan-Multimodal Intervention Trial for the Prevention of Dementia: An 18-month, multicenter, randomized controlled trial. *Alzheimers Dement*. 2024 in press.
- 127) Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Makino K, Harada K, Tomida K, Arai H. Elevated Risk of Dementia Diagnosis in Older Adults with Low Frequencies and Durations of Social Conversation. *J Alzheimers Dis*, 98(2): 659-669, 2024.
- 128) Kuroda Y, Goto A, Sugimoto T, Fujita K, Uchida K, Matsumoto N, Shimada H,

- Ohtsuka R, Yamada M, Fujiwara Y, Seike A, Hattori M, Ito G, Arai H, Sakurai T. Participatory approaches for developing a practical handbook integrating health information for supporting individuals with mild cognitive impairment and their families. *Health Expect*, 27(1): e13870, 2024.
- 129) 島田裕之. 臨床に役立つ Q&A 1. 認知症予防のための運動方法について教えてください. *Geriatric Medicine*, 60(7): 635-638, 2022.
- 130) Kamizato C, Osawa A, Maeshima S, Kagaya H and Arai H. Activity level by clinical severity and sex differences in patients with Alzheimer disease and mild cognitive impairment. *Psychogeriatr*. 2023; 23: 815-820
- 131) Maeshima S, Osawa A, Kawamura K, Yoshimura T, Otaka E, Sato Y, Ueda I, Itoh N, Kondo I, Arai H. Neuropsychological tests used for dementia assessment in Japan: Current status. *Geriatr Gerontol Int*. 2023; doi: 10.1111/ggi.14678.
- 132) 大沢愛子, 前島伸一郎, 荒井秀典. 軽度認知障害と認知症の人に対する非薬物的治療とケアのエビデンス. *老年精神医学雑誌*. 2023; 34 : 746-752
- 133) Uchida K, Sugimoto T, Tange C, Nishita Y, Shimokata H, Saji N, Kuroda Y, Matsumoto N, Kishino Y, Ono R, Akisue T, Otsuka R, Sakurai T. **Association between abdominal adiposity and cognitive decline in older adults: a 10-year community-based study**. *J Nutr Health Aging*, 28: 100175(7pages), 2024.
- 134) Kuroda Y, Goto A, Sugimoto T, Fujita K, Uchida K, Matsumoto N, Shimada H, Ohtsuka R, Yamada M, Fujiwara Y, Seike A, Hattori M, Ito G, Arai H, Sakurai T. Participatory approaches for developing a practical handbook integrating health information for supporting individuals with mild cognitive impairment and their families. *Health Expect*. 2023 Sep 19. doi: 10.1111/hex.13870. Epub ahead of print. PMID: 37726981.
- 135) Aya Seike, Koudai Kawase, Sayaka Takeuchi, Tomoharu Moriyama, Shigemi Nanpo, Akinori Takeda, And Hidenori Arai. Research on the development of a psychosocial support program using a recreational approach for people with mild cognitive impairment or dementia and their families. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2024 (Under review)
- 136) Fujiwara Y, Seino S, Nofuji Y, Yokoyama Y, Abe T, Yamashita M, Hata T, Fujita K, Murayama H, Shinkai S, Kitamura A. The relationship between working status in old age and cause-specific disability in Japanese community-dwelling older adults with or without frailty: A 3.6-year prospective study. *Geriatrics &*



- gerontology international. Nov 2023: 23(11):855-863.
- 137) Kobayashi-Cuya KE, Sakurai R, Sakuma N, Suzuki H, Ogawa S, Takebayashi T, Fujiwara Y. Bidirectional Associations of High-Level Cognitive Domains with Hand Motor Function and Gait Speed in High-Functioning Older Adults: A 7-year Study. Archives of Gerontology and Geriatrics.117. Online ahead of print (2023). (査読あり) (IF: 4.0, 2022)
- 138) Nofuji Y, Seino S, Abe T, Yokoyama Y, Narita M, Murayama H, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Effects of community-based frailty-preventing intervention on all-cause and cause-specific functional disability in older adults living in rural Japan: A propensity score analysis. Prev Med . 2023 Feb 13;169:107449. doi: 10.1016/j.ypmed.2023.107449. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 4.637、2021/2022)
- 139) Osuka Y, Okubo Y, Nofuji Y, Maruo K, Fujiwara Y, Oka H, Shinkai S, Lord SR, Sasai H. Occupational Fall Risk Assessment Tool for older workers. Occup Med (Lond) . 2023 Mar 9;kqad035. doi: 10.1093/occmed/kqad035. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 5.629、2021/2022)
- 140) Seino S, Abe T, Nofuji Y, Hata T, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Dose-response associations of physical activity and sitting time with all-cause mortality in older Japanese adults. J Epidemiol . 2022 Dec 24. doi: 10.2188/jea.JE20220246. Online ahead of print.. (査読あり) (IF: 3.809、2021/2022)
- 141) Abe T, Fujita K, Sagara T, Ishibashi T, Morishita K, Murayama H, Sakurai R, Osuka Y, Watanabe S, Fujiwara Y. Associations between frailty status, work-related accidents and efforts for safe work among older workers in Tokyo: A cross-sectional study. Geriatr Gerontol Int. 2023 Mar;23(3):234-238. doi: 10.1111/ggi.14557. Epub 2023 Feb 6. (査読あり) (IF: 3.387、2021/2022)
- 142) Yokoyama Y, Nofuji Y, Seino S, Abe T, Murayama H, Narita M, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Association of dietary variety with the risk for dementia: the Yabu cohort study. Public Health Nutr . 2023 May 2:1-8. doi: 10.1017/S1368980023000824. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 4.539、2022/2023)
- 143) Kitago M, Seino S, Shinkai S, Nofuji Y, Yokoyama Y, Hata T, Abe T, Taniguchi Y, Amano H, Murayama H, Kitamura A, Akishita M, Fujiwara Y. Cross-Sectional and Longitudinal Associations of Creatinine-to-Cystatin C Ratio with Sarcopenia Parameters in Older Adults. J Nutr Health Aging. (in press). (査読あり) (IF: 5.285、2022/2023)
- 144) Abe T, Seino S, Nofuji Y, Yokoyama Y, Amano H, Yamashita M, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Modifiable healthy behaviours and incident disability in older adults: Analysis of combined data from two cohort studies in Japan. Exp Gerontol . 2023 Mar;173:112094. doi: 10.1016/j.exger.2023.112094. Epub 2023 Jan 19.. (査読あり) (IF: 3.9、

- 2022/2023)
- 145) Abe T, Seino S, Hata T, Yamashita M, Ohmori N, Kitamura A, Shinkai S, Fujiwara Y. Transportation modes and social participation in older drivers and non-drivers: Results from urbanised Japanese cities. *J Transp Geogr*. 2023 May;109:103598. doi.org/10.1016/j.jtrangeo.2023.103598. (査読あり) (IF: 6.1、2022/2023)
- 146) Abe T, Yamashita M, Fujiwara Y, Sasai H, Obuchi PS, Ishizaki T, Awata S, Toba K, IRIDE Cohort Study investigators. Fluctuations in cognitive test scores and loss to follow-up in community-dwelling older adults: The IRIDE Cohort Study. *Dement Geriatr Cogn Disord*. 2023 Aug 10. doi: 10.1159/000531764. Online ahead of print.. (査読あり) (IF: 2.4、2022/2023)
- 147) Yamanaka N, Itabashi M, Fujiwara Y, Nofuji Y, Abe T, Kitamura A, Shinkai S, Takebayashi T, Takei T. Relationship between the urinary Na/K ratio, diet and hypertension among community-dwelling older adults. *Hypertens Res*. 2023 Mar;46(3):556-564. doi: 10.1038/s41440-022-01135-4. Epub 2022 Dec 16.. (査読あり) (IF: 5.4、2022/2023)
- 148) Hatanaka S, Sasai H, Shida T, Osuka Y, Kojima N, Ohta T, Abe T, Yamashita M, Obuchi SP, Ishizaki T, Fujiwara Y, Awata S, Toba K, IRIDE Cohort Study investigators. Association between dynapenia and cognitive decline in community-dwelling older Japanese adults: The IRIDE Cohort Study. *Geriatr Gerontol Int*. (in press). (査読あり) (IF: 3.3)
- 149) Nonaka K, Murayama H, Murayama Y, Murayam S, Kuraoka M, Nemoto Y, Kobayashi E, Fujiwara Y. The Impact of Generativity on Maintaining Higher-Level Functional Capacity of Older Adults: A Longitudinal Study in Japan. *Int J Environ Res Public Health*. 2023 May 31;20(11):6015. doi: 10.3390/ijerph20116015.. (査読あり) (IF:4.614、2022/2023)
- 150) Nofuji Y, Seino S, Abe T, Yokoyama Y, Narita M, Murayama M, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Effects of community-based frailty-preventing intervention on all-cause and cause-specific functional disability in older adults living in rural Japan: A propensity score analysis. *Preventive Medicine* 2023; 169: 107449. doi: 10.1016/j.ypmed.2023.107449.
- 151) Abe T, Fujita K, Sagara T, Ishibashi T, Morishita K, Murayama H, Sakurai R, Osuka Y, Watanabe S, Fujiwara Y. Associations between frailty status, work-related accidents and efforts for safe work among older workers in Tokyo: A cross-sectional study. *Geriatrics & Gerontology International* 2023; 23(3): 234-238. doi: 10.1111/ggi.14557.
- 152) Taniguchi Y, Yokoyama Y, Ikeuchi T, Mitsutake S, Murayama H, Abe T, Seino S, Amano H, Nishi M, Hagiwara Y, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Pet ownership-related differences in medical and long-term care costs among community-dwelling older Japanese. *PLoS ONE* 2023; 18(1): e0277049. doi: 10.1371/journal.pone.0277049.
- 153) Yokoyama Y, Nofuji Y, Seino S, Abe T,

- Murayama H, Narita M, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Association of dietary variety with the risk for dementia: the Yabu Cohort Study. *Public Health Nutrition* 2023; 26(11): 2314-2321. doi: 10.1017/S1368980023000824..
- 154) Nonaka K, Murayama H, Murayama Y, Murayama S, Kuraoka M, Nemoto Y, Kobayashi E, Fujiwara Y. The impact of generativity on maintaining higher-level functional capacity of older adults: A longitudinal study in Japan. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2023; 20(11): 6015. doi: 10.3390/ijerph20116015.
- 155) Murayama H, Nakamoto I, Takase M, Sagara T, Sugiura K, Higashi K, Fujiwara Y. Older assistant care workers as late-life employment in Japan: Perceived benefits from work and emotional exhaustion. *Geriatrics & Gerontology International* (in press).
- 156) Kitago M, Seino S, Shinkai S, Nofuji Y, Yokoyama Y, Toshiki H, Abe T, Taniguchi Y, Amano H, Murayama H, Kitamura A, Akishita M, Fujiwara Y. Cross-sectional and longitudinal associations of creatinine-to-cystatin C ratio with sarcopenia parameters in older adults. *Journal of Nutrition, Health & Aging*. (in press).
- 157) Abe T, Yamashiro D, Yamashita M, Ueda T, Suzuki H, Fujiwara Y, Awata S, Toba K. Assessments of cognitive function of older adults in community general support centers: The IRIDE cohort study. *Geriatrics & Gerontology International*. Nov;23(11):887-888. (2023). (査読あり)( IF : 3.3, 2022)
- 158) Cho D, Suzuki H, Ogawa S, Takahashi T, Sato K, Iizuka A, Kobayashi M, Yamauchi M, Kinai A, Li Y, Fujiwara F. Evaluation of the usefulness of a paper-pencil group cognitive assessment for older adults in the community. *BMC public health* 23(1) 1273-1273. (2023). (査読あり)( IF : 4.135, 2022)
- 159) Kobayashi J, Suzuki H, Sato K, Ogawa S, Matsunaga H, Kawashima T. Eye Movement Differences in Japanese Text Reading between Cognitively Healthy Older and Younger Adults. *UbiComp/ISWC '23 Adjunct: Adjunct Proceedings of the 2023 ACM International Joint Conference on Pervasive and Ubiquitous Computing & the 2023 ACM International Symposium on Wearable Computing*, 469-474. (2023). (査読あり)
- 160) Ogawa S, Suzuki H, Kobayashi-Cuya KE, Murayama S, Iizuka A, Takahashi T, Yamauchi M, Fujiwara, Y. A Randomized Controlled Pilot Study on Home-Based Expressive Writing Intervention for Community-Dwelling Japanese Older Adults Who Care About Their Forgetfulness. *SAGE Open*, 13(4). (2023). (査読あり)( IF:2.032, 2022)
- 161) Shimizu Y, Sato K, Ogawa S, Cho D, Takahashi Y, Yamashiro D, Li Y,

- Takahashi T, Hinakura K, Iizuka A, Furuya T, Suzuki H. Subjective well-being and implicit anti-old attitudes held by Japanese older adults. *Geriatrics & Gerontology International* (in press). (2023). (査読あり) (IF:3.3, 2022)
- 162) Shimizu Y, Takahashi T, Sato K, Ogawa S, Cho D, Takahashi Y, Yamashiro D, Li Y, Hinakura K, Iizuka A, Furuya T, & Suzuki H. Perceptions of older adults and generativity among older citizens in Japan: A descriptive cross-sectional study. *Osong Public Health and Research Perspectives*. (in press). (2023) (査読あり) (IF: 4.3, 2022)
- 163) Hatanaka S, Sasai H, Shida T, Osuka Y, Kojima N, Ohta T, Abe T, Yamashita M, Obuchi SP, Ishizaki T, Fujiwara Y, Awata S, Toba K. Association between dynapenia and cognitive decline in community-dwelling older Japanese adults: The IRIDE Cohort Study. *Geriatrics & gerontology international* Epub ahead of print. 2023. 9. 21.
- 164) Abe T, Yamashiro D, Yamashita M, Ueda T, Suzuki H, Fujiwara Y, Awata S, Toba K. Assessments of cognitive function of older adults in community general support centers: The IRIDE cohort study. *Geriatrics & gerontology international*. Epub ahead of print. Sep 2023: doi:0.1111/ggi.14677.
- 165) Abe T, Yamashita M, Fujiwara Y, Suzuki H, Sasai H, Obuchi SP, Ishizaki T, Awata S, Toba K. Fluctuations in Cognitive Test Scores and Loss to Follow-up in Community-Dwelling Older Adults: The IRIDE Cohort Study. *Dementia and geriatric cognitive disorders*. Aug 10 2023. 52 (5-6): 296-303. doi:10.1159/000531764.
- 166) Yamashita M, Kato M, Kawanishi T, Uehara Y, Kubota Y, Ogisawa F, Kawakubo K, Taga T, Okamura T, Ito K, Kitamura S, Yamazaki A. Characteristics of people seeking consultation after progressing to severe dementia: A mixed - method analysis. *International Journal of Geriatric Psychiatry*. 2023. 38(3):e5902. doi:10.1002/gps.5902.
- 167) Abe T, Seino S, Nofuji Y, Yokoyama Y, Amano H, Yamashita M, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Modifiable healthy behaviours and incident disability in older adults: Analysis of combined data from two cohort studies in Japan. *Experimental gerontology*. 2023. 173:112094-112094. doi:10.1016/j.exger.2023.
- 168) 山下真里、藤原佳典. 若年性認知症の本人と家族のつどい-特集 新時代の診断後支援を考える. *認知症ケア事例ジャーナル*. 2023;16(2):104-109. (査読なし)

## 2. 学会発表

- 1) 合同シンポジウム4 (第32回日本老年学会総会) 認知症の発症や予後に影響

- を及ぼす栄養・食事について考える  
認知症と栄養 櫻井孝 第 63 回日本老年医学会学術集会 (2021. 6. 11~6. 13 名古屋・WEB)
- 2) 教育講演 2 MCI からの認知症予防 ～ J-MINT 研究の進捗～ 講演 櫻井孝 第 10 回日本認知症予防学会学術集会 (2021. 6. 24~26 横浜)
- 3) 櫻井孝、岩坪威、森康治、池内健 座長池田学 シンポジウム 9 我が国における認知症大規模レジストリとその成果 J-MINT 研究；概要と進捗 第 36 回日本老年精神医学会 (2021. 9. 16~18 WEB)
- 4) 櫻井孝 シンポジウム 2 J-MINT 研究の概要：多因子介入による認知症の病態に応じた予防戦略 第 40 回日本認知症学会 (2021. 11. 26~28 東京・WEB)
- 5) 島田裕之. 教育講演 1 「認知症予防のためのポピュレーションアプローチ」. 第 10 回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021 年 6 月 25 日.
- 6) 清家 理, 竹内さやか, 萩原淳子, 猪口里永子, 伊藤眞奈美, 天白宗和, 溝神文博, 斎藤 民, 鈴木宏和, 堀部賢太郎, 武田章敬, 櫻井 孝, 荒井秀典. 「MCI および認知症を有する人と家族介護者への心理社会的教育支援プログラムの RCT : Pilot study」. 認知症学会. 2021. 11.
- 7) 竹内さやか, 清家理, 萩原淳子, 猪口里永子, 松田由紀子, 伊藤眞眞奈美, 武田章敬, 櫻井孝, 荒井秀典. 「ICT を活用した認知症の人の家族介護者支援に関する実態調査」. 国立病院総合医学会. 2021. 10.
- 8) 清家 理. 「家族・介護者のケアと効果的な手法」. 老人保健施設協会. 2021 年度老人管理医師総合診療研修会. WEB 開催. 2021.6.
- 9) 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会 (2022. 5. 12~5. 14・神戸) 5 月 12 日発表 シンポジウム 4 加齢を踏まえた糖尿病管理の最前線 糖尿病における包括的な認知症予防対策 (J-MIND 研究) 櫻井孝
- 10) 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会 (2022. 5. 12~5. 14・神戸) 5 月 13 日発表 シンポジウム 15 知・情・意・体一人の結びつきがつくる明日の糖尿病学 (日本糖尿病医療学会合同シンポジウム) 認知症を併発した高齢 1 型糖尿病患者の管理 櫻井孝
- 11) 第 64 回日本老年医学会学術集会 (2022. 6. 2~6. 4) 6 月 3 日発表 シンポジウム 12 MCI の病態と対応 MCI の進行予防を目指した非薬物多因子介入 櫻井孝
- 12) 第 64 回日本老年医学会学術集会 (2022. 6. 2~6. 4) 座長 シンポジウム 29 認知症予防の社会実装を考える 櫻井孝
- 13) 第 64 回日本老年医学会学術集会 (2022. 6. 2~6. 4) 6 月 4 日発表 シンポジウム 29 認知症予防の社会実装を考える J-MINT 研究の社会実装を考える 杉本大貴 櫻井孝
- 14) 第 64 回日本老年医学会学術集会 (2022. 6. 2~6. 4) 6 月 4 日発表 シンポジウム 31 認知症治療法の最前線 認知症予防の最前線～マルチドメイン

- 介入の進捗と今後の展望～ 櫻井孝
- 15) 第 11 回日本認知症予防学会学術集会  
(2022. 9. 23~9. 25) 福岡. 9 月 25 日発表 教育講演 10 「認知症予防を目指した多因子介入試験 (J-MINT)」 櫻井孝
- 16) 第 37 回日本糖尿病合併症学会・第 22 回日本糖尿病眼科学会総会 (2022. 10. 21~10. 22) 10 月 21 日発表 シンポジウム 2 「高齢者糖尿病における認知症予防の包括的対策」 櫻井孝
- 17) Taiwan Association for Integrated Care (2022. 11. 27) 台湾・WEB 11 月 27 日発表 演者 「Holistic care for dementia in Japan」 Speaker: Takashi Sakurai
- 18) 第 41 回日本認知症学会学術集会・第 37 回日本老年精神医学会. (2022. 11. 25~27) 東京. 11 月 26 日 座長・発表. シンポジウム 34 認知症予防のエビデンスと社会実装に向けた挑戦「わが国の多因子介入研究 (J-MINT) の進捗と社会実装に向けた取り組み」 櫻井孝
- 19) 8th Geriatric Innovation Forum  
(2023. 1. 21) 名古屋. In hand, on hand: Development of a practical handbook for the continued support of people with MCI and their families. Kuroda Y, Goto A, Sakurai T
- 20) 島田裕之. シンポジウム 48 「生活習慣介入による AD 予防のエビデンス」身体活動による認知症予防のエビデンスと今後の展望. 第 41 回日本認知症学会学術集会・第 37 回日本老年精神医学会, 東京都(ハイブリッド開催), 2022 年 11 月 27 日
- 21) 神谷正樹, 大沢愛子, 近藤和泉 軽度認知障害および認知症者への卓上テーブル型ゲーム機器を使用したグループ課題の実行可能性の検証 第 64 回日本老年医学会学術集会 2022/6/2 大阪市/WEB
- 22) 神谷正樹, 大沢愛子, 西井久枝, 近藤和泉 認知症高齢者の下部尿路機能障害に関する家族の介護負担感の現状と家族支援のあり方の検討 第 35 回日本老年泌尿器科学会 2022/6/10 甲府市/WEB
- 23) 大高恵莉, 大沢愛子, 橋出秀清, 水野勝広 認知症者における感覚刺激への心理・情動反応評価:パイロット研究 認知症者における感覚刺激への心理・情動反応評価:パイロット研究 第 59 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2022/6/24 横浜市
- 24) 大沢愛子 意識障害のリハビリテーション 2022 年度 第 6 回日本意識障害学会 Web セミナー 2022/7/29 WEB
- 25) Kondo I, Osawa A, Yamada M, Matsumura J, Aimoto K, Itoh N, Maeshima A, Arai H. Rasch analysis for novel ADL scale for older adults - NCGG-Practical ADL Scale (NCPA). ISPRM 2022. 2022/7/3. Lisboa, Portugal
- 26) 神里千瑛, 大沢愛子, 前島伸一郎, 加賀谷斉, 近藤和泉 アルツハイマー型認知症と軽度認知障害における活動性の検討 第 6 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2022/11/4 岡山市

- 27) 大沢愛子 認知症診療における専門性  
～リハビリテーション専門医の立場か  
ら。 第41回日本認知症学会学術集会  
(シンポジウム) 2022/11/26 東京  
都
- 28) 大沢愛子 私の推奨する認知症リハビ  
リテーション 第41回日本認知症学会  
学術集会 (シンポジウム)  
2022/11/27 東京都
- 29) 前島伸一郎, 大沢愛子, 川村皓生, 吉  
村貴子, 大高恵莉, 佐藤弥生, 植田郁  
恵, 伊藤直樹, 近藤和泉, 荒井秀典  
本邦における認知症診療における神経  
心理学的評価の実態 第41回日本認知  
症学会学術集会 (シンポジウム)  
2022/11/26 東京都
- 30) 神里千瑛, 大沢愛子, 前島伸一郎, 武  
田章敬, 近藤和泉, 荒井秀典 アルツ  
ハイマー型認知症と軽度認知障害にお  
ける脳萎縮と記憶機能との関連 第41  
回日本認知症学会学術集会 第37回日  
本老年精神医学会 合同開催  
2022/11/26 東京都
- 31) 伊藤直樹, 大沢愛子, 前島伸一郎, 植  
田郁恵, 吉村貴子, 川村皓生, 大高恵  
莉, 神谷正樹, 佐藤弥生, 加賀谷  
齊, 荒井秀典 認知症診療に用いられる日  
常生活活動ならびに生活の質に関する  
評価一覧 第46回日本高次脳機能障害  
学会学術総会 2022/12/3 山形市
- 32) 植田郁恵, 大沢愛子, 吉村貴子, 川村  
皓生, 神谷正樹, 伊藤直樹, 加賀谷  
齊, 前島伸一郎, 荒井秀典 認知症の  
人と家族介護者の認知症の評価に対す  
る要望調査 第46回日本高次脳機能障  
害学会学術総会 2022/12/3 山形市
- 33) 小森政嗣, 竹村幸祐, 箕浦有希久, 打  
田篤彦, 飯田梨乃, 清家理, 内田由紀  
子. ある農村地域における多層的な社会  
ネットワークと向コミュニティ態度の  
関係. Human Communication Group シン  
ポジウム. 2022. 12
- 34) A. Seike, S. Takeuchi, J. Hagiwara,  
A. Takeda, T. Sakurai and H. Arai.  
Development of psycho-social  
support program -Challenges,  
Results and Future-. Workshop in  
National Sun Yat-sen Univ. 2022  
(Web)
- 35) 清家理, 荒井秀典. 孤立防止のための  
互助・自助強化プログラム『くらしの  
学び庵』の試行的実施と効果検証. 第  
9回日本サルコペニア・フレイル学会.  
2022
- 36) Fujita K, Yamashita M, Nishi M,  
Murayama H, Fujiwara Y. Literature  
review of the significance of  
social frailty as a comprehensive  
indicator. The 22nd World Congress  
of Gerontological and Geriatrics  
(IAGG 2022), ONLINE, Poster.  
2022. 6. 12-16.
- 37) Abe T, Seino S, Hata T, Yamashita  
M, Ohmori N, Kitamura A, Shinkai S,  
Fujiwara Y. Characteristics of  
travel behaviour associated with  
social participation in older  
drivers and non-drivers.  
International Conference on  
Transport & Health 2022, hybrid  
conference. Oral. 2022. 6. 13-30.
- 38) Hayakawa M, Motokawa K, Mikami Y,

- Shirobe M, Edahiro A, Iwasaki M, Ohara Y, Watanabe Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Inagaki H, Shinkai S, Awata S, Araki A, Hirano H. Low dietary variety and diabetes mellitus are associated with frailty among community-dwelling older Japanese adults: a cross-sectional study, The 8th Asian Congress of Dietetics, Yokohama, Japan. Poster. 2022. 8. 19-21.
- 39) Hata T, Seino S, Tomine Y, Yokoyama Y, Narita M, Nishi M, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. The interaction of dietary variety and eating alone on incident functional disability among older Japanese adults. The 8th Asian Congress of Dietetics, Yokohama, Japan. Poster. 2022. 8. 19-22.
- 40) Motokawa K, Mikami Y, Shirobe M, Edahiro A, Ohara Y, Iwasaki M, Watanabe Y, Kawai H, Kera T, Obuchi S, Kim H, Fujiwara Y, Ihara K, Hirano H. Relationship between chewing ability and nutritional status in Japanese older adults: a cross-sectional study, The 8th Asian Congress of Dietetics, Yokohama, Japan. Poster. 2022. 8. 19-21.
- 41) Ejiri M, Kawai H, Ito K, Fujiwara Y, Ihara K, Hirano H, Obuchi S. Regular exercise reduces the risk of mortality in socially isolated older adults: The Otassha Study. Asia-Pacific Society for Physical Activity (ASPA) 2022 Conference, Melbourne, Australia (hybrid). Poster. 2022. 10. 28-29.
- 42) Fujiwara Y, Seino S, Nofuji Y, Yokoyama Y, Abe T, Hata T, Shinkai S, Kitamura A. The relationship between employment in old age and all-cause mortality in Japanese community-dwelling with/without frail elderly: A 3.6-year prospective study. The Gerontological Society of America's 2022 Annual Scientific Meeting, Indianapolis, USA. Poster. 2022. 11. 2-6.
- 43) Seino S, Taniguchi Y, Narita M, Abe T, Nofuji Y, Yokoyama Y, Shinkai S, Fujiwara Y. Trajectories of Skeletal Muscle Mass and Fat Mass and Their Impacts on Mortality in Older Japanese Adults. Gerontological Society of America 2022 Annual Scientific Meeting, Indianapolis, USA. Poster. 2022. 11. 2-6.
- 44) Taniguchi Y, Yokoyama Y, Ikeuchi T, Mitsutake S, Murayama H, Abe T, Seino S, Amano H, Nishi M, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Pet ownership-related differences in medical and long-term care costs among community-dwelling older Japanese. The 55th Australian Association of Gerontology



- Conference, Adelaide, Australia, hybrid conference. Poster. 2022.11.22-25.
- 45) Yokoyama Y, Nofuji Y, Abe T, Seino S, Yoshizaki T, Fujiwara Y. Development and validation of a prediction model for identifying the risk of inadequate protein intake in community-dwelling older adults. 22nd International Congress of Nutrition, hybrid conference, Tokyo, Japan. Poster. 2022.12.6-11.
- 46) Narita M, Shinkai S, Yokoyama Y, Kitamura A, Inagaki H, Fujiwara Y, Awata S. Effects of dairy beverages fortified with protein and micronutrients on the risk of early-stage undernutrition and frailty in community-dwelling older adults: A randomized, controlled trial. 22nd International Congress of Nutrition, hybrid conference, Tokyo, Japan. Poster. 2022.12.6-11.
- 47) Hata T, Seino S, Tomine Y, Yokoyama Y, Narita M, Nishi M, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Association of changes in dietary variety with all-cause mortality among older Japanese adults with/without frailty. 22nd International Congress of Nutrition, hybrid conference, Tokyo, Japan. Poster. 2022.12.6-11.
- 48) 藤原佳典. 健康長寿実現のための地域社会のあり方：ゼロ次予防の視点から高齢者の有償活動と持続可能な地域社会に向けた0次予防. 第64回日本老年医学会学術集会（大阪国際会議場、ハイブリッド開催：大阪）. シンポジウム. R4.6.2-4.
- 49) 藤原佳典、清野諭、野藤悠、横山友里、阿部巧、山下真里、成田美紀、秦俊貴、新開省二、北村明彦. 地域在住高齢者の骨格筋指数の加齢変化パターンとその予測要因. 第64回日本老年医学会学術集会（大阪国際会議場、ハイブリッド開催：大阪）. 口演. R4.6.2-4.
- 50) 清野諭、谷口優、成田美紀、阿部巧、野藤悠、横山友里、天野秀紀、新開省二、北村明彦、藤原佳典. 地域在住高齢者の骨格筋指数の加齢変化パターンとその予測要因. 第64回日本老年医学会学術集会（大阪国際会議場、ハイブリッド開催：大阪）. 口演. R4.6.2-4.
- 51) 阿部巧、野藤悠、清野諭、秦俊貴、北村明彦、新開省二、藤原佳典. コロナ禍における生活行動の変化と類型化による関連要因の探索. 第64回日本老年医学会学術集会（大阪国際会議場、ハイブリッド開催：大阪）. 口演. R4.6.2-4.
- 52) 成田美紀、新開省二、横山友里、清野諭、阿部巧、野藤悠、天野秀紀、西真理子、北村明彦、藤原佳典. 地域在住高齢者における健康な食事スコアとフレイル・サルコペニアとの横断的関連. 第64回日本老年医学会学術集会（大阪国際会議場、ハイブリッド開催：大阪）. 口演. R3.6.2-4.
- 53) 江尻愛美、河合恒、伊藤久美子、藤原佳典、井原一成、平野浩彦、金憲経、

- 大淵修一. 地域在住高齢者における社会的孤立と循環器疾患による死亡の関連: 長期縦断研究. 第 64 回日本老年医学会学術集会 (大阪国際会議場、ハイブリッド開催: 大阪). 口演. R4. 6. 2-4.
- 54) 河合恒、江尻愛美、伊藤久美子、藤原佳典、井原一成、平野浩彦、金憲経、大淵修一. 地域高齢者における社会ネットワークの加齢変化パターンとフレイルとの関連. 第 64 回日本老年医学会学術集会 (大阪国際会議場: 大阪). 口演. R4. 6. 2-4.
- 55) 秦俊貴、横山友里、上條文夏、伊藤裕子、松岡亮輔、増田泰伸、北村明彦、藤原佳典. 都市部在住中年者および高齢者のフレイルと食事摂取状況. 第 10 回日本食育学会学術大会 (昭和女子大学、Web 開催: 東京). 示説. R4. 6. 4-5.
- 56) 江尻愛美、河合恒、今村慶吾、解良武士、井原一成、藤原佳典、平野浩彦、金憲経、大淵修一. 長期化するコロナ禍における高齢者の心理的ウェルビーイングの変化パターンとコーピングとしての運動実施の関連. 第 24 回日本運動疫学会学術総会 (東海大学: 神奈川). 口演. R4. 6. 25-26.
- 57) 橋本和明、竹内武昭、村崎舞耶、大淵修一、河合恒、平野浩彦、藤原佳典、金憲経、井原一成、渡邊裕、端詰勝敬. 都市部高齢者における精神的健康状態と症候性中枢性感作の出現に関するコホートスタディ. 第 63 回日本心身医学会学術講演会 (幕張メッセ: 千葉). 口演. R4. 6. 25-26.
- 58) 藤原佳典. 住民主体の多様な通いの場とは: 学際的な意義と課題. 日本老年社会科学会 第 63 回大会 (桜美林大学、東京). 自主企画フォーラム. R4. 7. 2-3.
- 59) 清野諭、新開省二、北村明彦、野藤悠、横山友里、秦俊貴、藤原佳典. COVID-19 第 1~5 波が大都市在住高齢者の新規要支援・要介護申請に及ぼした影響. 第 64 回老年社会科学会 (桜美林大学: 東京). 示説. R4. 7. 2-3.
- 60) 河合恒、江尻愛美、伊藤久美子、藤原佳典、井原一成、平野浩彦、金憲経、大淵修一. 老研式活動能力指標の下位尺度低下の組合せと総死亡との関連: 板橋お達者研究 8 年間の縦断調査より. 第 64 回老年社会科学会 (桜美林大学: 東京). 示説. R4. 7. 2-3.
- 61) 江尻愛美、河合恒、伊藤久美子、井原一成、藤原佳典、平野浩彦、金憲経、大淵修一. 社会からの離脱は高齢者の死亡リスクを高めるか—縦断調査脱落者に対する段階的追跡調査による検討—. 第 64 回老年社会科学会 (桜美林大学: 東京). 示説. R4. 7. 2-3.
- 62) 野中久美子、村山洋史、村山幸子、倉岡正高、村山陽、小林江里香、藤原佳典. 日常生活支援提供意向が高い若中年層の特徴: 異世代・同世代間での手段的・情緒的支援の授受経験との関連から. 第 64 回老年社会科学会 (桜美林大学: 東京). 示説. R4. 7. 2-3.
- 63) 松永博子、藤田幸司、藤原佳典. 中高年齢生活困窮者が自立支援施設の支援に至るプロセス: ケーススタディからの知見. 第 64 回老年社会科学会 (桜美林大

- 学：東京）。示説．R4.7.2-3.
- 64) 藤田幸司、松永博子、佐々木久長、藤原佳典、本橋豊．地域づくり型芸術イベントが地域高齢者の健康度自己評価に与える影響．第64回老年社会科学会（桜美林大学：東京）。示説．R4.7.2-3.
- 65) 井原一成、端詰勝敬、橋本和明、江尻愛美、藤原佳典、平野浩彦、笹井浩行、河合恒、大淵修一．都市部高齢者におけるアパシーと認知機能・生活機能との関係性．第30回体力・栄養・免疫学会大会（弘前大学：青森）。口演．R4.8.27-28.
- 66) 岩崎正則、小原由紀、本川佳子、白部麻樹、早川美知、枝広あや子、河合恒、渡邊裕、井原一成、藤原佳典、大淵修一、平野浩彦．地域在住高齢者におけるCDC・AAP 歯周病質問票日本語版の妥当性の検討 お達者健診研究．第65回秋季日本歯周病学会学術大会（仙台国際センター、ハイブリッド開催：宮城）。示説．R4.9.2-3.
- 67) 相良友哉、高橋知也、松永博子、藤田幸司、藤平杏子、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典．コロナ禍において活動意欲が低下した高齢ボランティアの特性：世代間交流プロジェクト REPRINTS 研究より．日本世代間交流学会第13回大会（聖路加国際大学：東京）。R4.9.3.
- 68) 森裕樹、倉岡正高、藤原佳典．多様な主体の社会参加を促す場づくりの要因 - シルバー人材センターを対象とした多世代交流の通いの場調査結果 - ．日本世代間交流学会第13回大会（聖路加国際大学：東京）。口演．R4.9.3.
- 69) 高橋知也、松永博子、相良友哉、藤田幸司、藤平杏子、小川将、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典．絵本読み聞かせシニアボランティアにおける子どもイメージの様相と比較：REPRINTS 研究より．日本世代間交流学会第13回大会（聖路加国際大学：東京）。R4.9.3.
- 70) 大曾根由実、野口佳世、安瀬ちせ、深沢祐奈、横山友里、成田美紀、藤原佳典、北村明彦、新開省二．地域在住高齢者における四群点数法を用いた食事摂取状況とフレイルとの関連．第69回日本栄養改善学会学術総会（川崎医療福祉大学、ハイブリッド開催：岡山）。示説．R3.9.16-18.
- 71) 清野諭、新開省二、野藤悠、横山友里、阿部巧、天野秀紀、北村明彦、藤原佳典．高齢者におけるクレアチニン・シスタチンC比とサルコペニア関連指標の横断的・縦断的関連．第77回日本体力医学会大会（獨協医科大学、Web開催：栃木）。示説．R4.9.21-23.
- 72) 阿部巧、清野諭、秦俊貴、杉山岳巳、Neville Owen、北村明彦、藤原佳典．高齢者における社会経済状況と中高強度身体活動との関連性．第77回日本体力医学会大会（獨協医科大学、Web開催：栃木）。示説．R4.9.21-23.
- 73) 河合恒、江尻愛美、今村慶吾、伊藤久美子、藤原佳典、平野浩彦、井原一成、金憲経、大淵修一．地域高齢者におけるコロナ禍の骨格筋指数の変化パターン：お達者研究．第77回日本体力医学会大会（獨協医科大学、Web開催：栃木）。示説．R4.9.21-23.

- 74) 三浦有花、桜井良太、河合恒、鈴木宏幸、小川将、平野浩彦、井原一成、藤原佳典、大淵修一。高齢者におけるつまずき経験と転倒の関連：縦断調査による検討。第77回日本体力医学会大会（獨協医科大学、Web開催：栃木）。示説。R4.9.21-23.
- 75) 阿部巧、山下真里、藤原佳典、笹井浩行、石崎達郎、大淵修一、栗田主一、鳥羽研二、IRIDE Cohort Study investigators。地域在住高齢者を対象としたコホート研究参加者における4年間の認知機能の変化の推移とその特徴：IRIDE Cohort Study。第11回日本認知症予防学会学術集会（福岡国際会議場：福岡）。口演。R4.9.23-25.
- 76) 大田崇央、笹井浩行、大須賀洋祐、小島成実、阿部巧、山下真里、金憲経、大淵修一、石崎達郎、藤原佳典、栗田主一、鳥羽研二、IRIDE コホート研究チーム。サルコペニア重症度と認知機能の関連：IRIDE コホート研究。第11回日本認知症予防学会学術集会（福岡国際会議場：福岡）。口演。R4.9.23-25.
- 77) 藤原佳典、阿部巧、野藤悠、清野諭、山下真里、秦俊貴、横山友里、藤田幸司、天野秀紀、新開省二、北村明彦。温泉観光地における高齢者の居住歴と心身社会的特徴、健康・ウェルビーイングとの関連。第81回日本公衆衛生学会総会（YCC 県民文化ホール、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 78) 清野諭、秦俊貴、阿部巧、野藤悠、新開省二、北村明彦、藤原佳典。高齢者の身体活動量・座位時間と介護保険認定リスクとの量反応関係：要支援／要介護別の検討。第81回日本公衆衛生学会総会（YCC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。口演。R4.10.7-9.
- 79) 横山友里、清野諭、野藤悠、阿部巧、村山洋史、西真理子、天野秀紀、成田美紀、新開省二、北村明彦、藤原佳典。体操を中心とした通いの場への参加が地域在住高齢者のフレイルに及ぼす効果。第81回日本公衆衛生学会総会（YCC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 80) 野藤悠、清野諭、阿部巧、横山友里、成田美紀、村山洋史、吉田由佳、新開省二、北村明彦、藤原佳典。「シルバー人材センターと連携した通いの場」への参加による要介護化の抑制効果。第81回日本公衆衛生学会総会（YCC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 81) 阿部巧、藤田幸司、相良友哉、石橋智昭、森下久美、村山洋史、桜井良太、大須賀洋祐、渡辺修一郎、藤原佳典。シルバー人材センター会員におけるフレイルと安全就業との関連性。第81回日本公衆衛生学会総会（YCC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 82) 藤田幸司、松永博子、高橋知也、藤平杏子、山下真里、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典。ボランティア活動をしている高齢者の地域活動参加頻度低下と心身の健康との関連。第81回日本公衆衛生学会総会（YCC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.

- 83) 成田美紀、横山友里、阿部巧、清野諭、天野秀紀、野藤悠、山下真里、秦俊貴、北村明彦、新開省二、藤原佳典。在宅高齢者における一緒に食べる相手の二年間の変化とフレイル発生との関連。第81回日本公衆衛生学会総会（山梨県立県民文化ホール、ハイブリッド開催：山梨）。口演。R4.10.7-9.
- 84) 相良友哉、阿部巧、藤田幸司、石橋智昭、森下久美、村山洋史、桜井良太、大須賀洋祐、渡辺修一郎、藤原佳典。都内シルバー人材センター会員が従事する主な業務における事故および怪我の実態。第81回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 85) 秦俊貴、清野諭、横山友里、成田美紀、西真理子、日田安寿美、新開省二、北村明彦、藤原佳典。都市部在住高齢者におけるBMI および食品摂取の多様性と要支援・要介護リスクとの関連。第81回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。口演。R4.10.7-9.
- 86) 森裕樹、野藤悠、清野諭、秦俊貴、藤原佳典。フレイル予防を目的とする通いの場の担い手向けプログラムの実施と評価。第81回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 87) 山中信、根本裕太、植田拓也、小林江里香、倉岡正高、森裕樹、田中元基、谷出敦子、藤原佳典。高齢就労者における仕事に対するやりがいおよび負担感とフレイルとの関連。第81回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 88) 長大介、高橋知也、松永博子、藤田幸司、相良友哉、鈴木宏幸、藤原佳典。ICT を用いた対人コミュニケーション頻度がシニアの心理・社会・生活機能に及ぼす影響。第81回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 89) 高橋知也、横山友里、清野諭、野中久美子、森裕樹、山下真里、藤原佳典。都市在住高齢者における被援助志向性に関連する身体、心理および社会的要因。第81回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 90) 田中元基、植田拓也、倉岡正高、根本裕太、白部麻樹、高橋淳太、森裕樹、谷出敦子、山中信、藤原佳典。自治体職員の認識する一般介護予防事業における通いの場支援の課題とその対応。第81回日本公衆衛生学会総会（山梨県立県民文化ホール他、Web 開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 91) 河合恒、江尻愛美、伊藤久美子、藤原佳典、井原一成、平野浩彦、金憲経、大淵修一。コロナ禍における地域高齢者の家族・非家族ネットワークの変化パターン：お達者研究。第81回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4.10.7-9.
- 92) 桜井良太、河合恒、鈴木宏幸、小川将、平野浩彦、井原一成、大淵修一、藤原佳典。高齢者における積極的孤立と精神的健康の関連。第81回日本公衆

- 衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。口演。  
R4. 10. 7-9.
- 93) 林眞由、渡部沙希、前田真理子、金田健、山本和司、岩崎正則、小原由紀、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、河合恒、渡邊裕、井原一成、大淵修一、藤原佳典、平野浩彦。おうち元気年齢の開発とおうち元気年齢算出機能搭載アプリの評価：お達者健診研究。第 81 回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4. 10. 7-9.
- 94) 雛倉圭吾、桜井良太、根本裕太、松永博子、藤原佳典。中高年者の LINE 利用は居住形態に関連する：世代と性別に着目した検討。第 81 回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4. 10. 7-9.
- 95) 小川将、鈴木宏幸、高橋知也、松永博子、藤平杏子、小宮山恵美、芳賀輝子、藤原佳典。産後ケア事業と高齢者ボランティアによる世代間交流プログラムの実装と評価。第 81 回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。  
R4. 10. 7-9.
- 96) 松永博子、高橋知也、鈴木宏幸、藤原佳典。生活困窮者自立支援の取組と課題及びニーズに関する研究：都内特別区の路上生活者対策施設を対象として。第 81 回日本公衆衛生学会総会（YYC 県民文化ホール他、ハイブリッド開催：山梨）。示説。R4. 10. 7-9.
- 97) 釘宮嘉浩、岩崎正則、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、渡邊裕、大淵修一、河合恒、江尻愛美、伊藤久美子、阿部巧、藤原佳典、北村明彦、新開省二、平野浩彦。口腔機能とサルコペニアの関係の検討：Otassy・Kusastu Study からの知見。第 9 回サルコペニア・フレイル学会（立命館大学：滋賀）。示説。R4. 10. 29-30.
- 98) 解良武士、河合恒、江尻愛美、伊藤久美子、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、金憲経、大淵修一。地域在住高齢者における呼吸筋サルコペニアと生存期間との関連について。第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（幕張メッセ：千葉）。口演。  
R4. 11. 11-12.
- 99) 藤原佳典、清野諭、野藤悠、横山友里、阿部巧、山下真里、成田美紀、秦俊貴、藤田幸司、相良友哉、新開省二、北村明彦。大都市部における高齢者就業は、介護予防に有効か？—性・雇用形態別の検討。第 17 回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）。示説。R4. 11. 12-13.
- 100) 野藤悠、藤倉とし枝、萩原静江、大須賀洋祐、清野諭、成田美紀、秦俊貴、新開省二、藤原佳典。「フレイル予防教室の運営」における就労的活動モデルの普及可能性と課題：埼玉県シルバー人材センター連合の取組。第 17 回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）。示説。R4. 11. 12-13.
- 101) 相良友哉、阿部巧、藤田幸司、石橋智昭、森下久美、村山洋史、桜井良太、大須賀洋祐、渡辺修一郎、藤原佳典。安全就業研修会への参加が非積極的な

- シルバー人材センター会員の特性に関する検討：都内7センターの会員を対象にして、第17回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）。示説。R4. 11. 12-13.
- 102) 秦俊貴、清野諭、野藤悠、遠峰結衣、藤原佳典。通いの場のフレイル予防機能強化を目的とした「ちょい足し」プログラム研修の評価：プログラムの受容性、採用、適切性について。第17回応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）。口演。R4. 11. 12-13.
- 103) 高橋知也、松永博子、相良友哉、藤田幸司、藤平杏子、小川将、山下真里、川窪貴代、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典。世代間交流を伴うボランティア活動に従事する高齢者の活動負担感と世代継承的関心および子どもイメージとの関連：REPRINTS 研究より。第17回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）。示説。R4. 11. 12-13.
- 104) 赤尾瑠琉、秦俊貴、成田美紀、藤原佳典、渡邊慎二、古谷千寿子、新開省二。オンラインアプリ『バランス日記』を用いたフレイル予防の実証研究：研究計画の立案。第17回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）。示説。R4. 11. 12-13.
- 105) 今村慶吾、河合恒、江尻愛美、伊藤久美子、藤原佳典、平野浩彦、井原一成、大淵修一。地域在住高齢者における社会的孤立尺度の組合わせと生活機能の軌跡の関連：お達者研究。第17回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）。口演。R4. 11. 12-13.
- 106) 江尻愛美、河合恒、伊藤久美子、藤原佳典、平野浩彦、井原一成、大淵修一。地域在住高齢者を対象とした郵送調査における社会的孤立の無回答者は孤立者と同様に死亡リスクが高い：お達者健診研究。第17回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）。口演。R4. 11. 12-13.
- 107) 解良武士、大須賀洋祐、河合恒、伊藤久美子、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、大淵修一。新しいサルコペニアスクリーニングツールの開発～予備的検討～。第9回日本予防理学療法学会学会術大会（赤羽会館、ハイブリッド開催：東京）。口演。R4. 11. 19-20.
- 108) 大淵修一、小島基永、河合恒、江尻愛美、伊藤久美子、藤原佳典、平野浩彦、井原一成。歩行時の加速度変化から認知機能低下を推測できるか？お達者健診研究。第9回日本予防理学療法学会学会術大会（赤羽会館、ハイブリッド開催：東京）。口演。R4. 11. 19-20.
- 109) 伊藤久美子、河合恒、江尻愛美、今村慶吾、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、大淵修一。コロナ禍における地域高齢者の生活機能の変化パターン：お達者研究。第9回日本予防理学療法学会学会術大会（赤羽会館、ハイブリッド開催：東京）。口演。R4. 11. 19-20.
- 110) 今村慶吾、河合恒、江尻愛美、伊藤久美子、藤原佳典、平野浩彦、井原一成、大淵修一。地域在住高齢者における社会的孤立状態の有無と生活機能の軌跡の関連。第9回日本予防理学療法学会学会術大会（赤羽会館、ハイブリッド開催：東京）。口演。R4. 11. 19-20.
- 111) 河合恒、江尻愛美、今村慶吾、伊藤久

- 美子、藤原佳典、平野浩彦、井原一成、金憲経、大淵修一. コロナ禍における地域高齢者の社会的ネットワークの変化パターン：お達者研究. 第9回日本予防理学療法学会学術大会（赤羽会館、ハイブリッド開催：東京）. 口演. R4. 11. 19-20.
- 112) 藤原佳典. 「人生100年時代の認知症を考える」シンポジウム：高齢者の社会参加・社会貢献活動と認知症予防. 第41回日本認知症学会学術集会 第37回日本老年精神医学会 [合同開催]（東京国際フォーラム：東京）. シンポジウム. R4. 11. 25-27.
- 113) 上田高志、河合恒、沼賀二郎、渡邊裕、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、金憲経、白矢智靖、大淵修一、外山琢. 糖尿病／前糖尿病における網膜神経線維層厚：お達者健診コホート研究. 第61回日本網膜硝子体学会総会（大阪国際会議場：大阪）. 示説. R4. 12. 2-4.
- 114) 桜井良太、西中川まき、雛倉圭吾、鈴木宏幸、高橋正時：補聴器装着が高齢者に及ぼす影響：歩行に着目した検討. 第18回姿勢と歩行研究会. 東京. 2022. 3. 12.
- 115) 小川将、田中元基、森裕樹、高橋知也、鈴木宏幸. 高齢者が認知機能検査に抱く負担感・緊張感：認知症予防事業の参加者へのインタビュー. 第17回日本応用老年学会大会，福岡，2022. 11. 12-13.
- 116) 小川将、長大介、飯塚あい、山城大地、高橋知也、鈴木宏幸. コロナ禍前後における社会参加事業への参加者の特徴-2019年と2020年の参加者の比較-日本老年社会学会第64回大会，東京，2022. 7. 2-3.
- 117) 小川将、鈴木宏幸、飯塚あい、山城大地、長大介、小林桃子、高橋知也. 対面式認知機能評価検査における感染症対策の影響-適切な検査レイアウト作成の試み- 第37回日本老年精神医学会、東京，2022. 11. 25-27
- 118) 鈴木宏幸，山城大地，小川将，長大介，飯塚あい，鈴木宣子. 軽度認知障害（MCI）スクリーニング検査のモデル事業における参加者の特徴と有効性. 第81回日本公衆衛生学会総会，山梨，2022. 10. 7-9.
- 119) 鈴木宏幸，山城大地，高橋佳史，小川将，佐藤研一郎，長大介. ミドル・シニア世代を対象としたタブレットPCによる認知機能評価検査の有効性と信頼性. 日本心理学会第86回大会，東京，2022. 9. 8-11.
- 120) 鈴木宏幸，小林潤平，佐藤研一郎，小川将，高橋佳史，松永博子. 健常高齢者の読み過程における眼球運動に関する解析：認知機能評価検査との関連. 第41回日本認知症学会学術集会・第37回日本老年精神医学会 合同開催. 東京，2022. 11. 25-27
- 121) 鈴木宏幸，大辻みずき，佐藤研一郎，松永博子，伊藤晃碧，三林ゆい，藤平杏子，村山洋史，小川敬之，藤原佳典. MCI・軽度認知症の人に対する趣味講座の効果検証（その1）：無作為化比較試験による心理機能への介入効果. 第17回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）. 口演. R4. 11. 12-



- 13.
- 122) 松永博子、鈴木宏幸、伊藤晃碧、大辻みずき、三林ゆい、佐藤研一郎、藤平杏子、村山洋史、小川敬之、藤原佳典。MCI・軽度認知症の人に対する趣味講座の効果検証その2)：講座参加の影響と講座への要望。第17回日本応用老年学会大会(九州産業大学：福岡)。口演。R4.11.12-13.
- 123) 佐藤研一郎、大辻みずき、鈴木宏幸、松永博子、伊藤晃碧、三林ゆい、藤平杏子、村山洋史、小川敬之、藤原佳典。MCI・軽度認知症の人に対する趣味講座の効果検証(その3)：講座参加の影響と講座への要望。第17回日本応用老年学会大会(九州産業大学：福岡)。口演。R4.11.12-13.
- 124) 佐藤研一郎、高橋佳史、小川将、山城大地、李岩、長大介、高橋知也、鈴木宏幸。高齢者の高齢者に対する顕在的・潜在的ステレオタイプともの忘れ愁訴。第86回日本心理学会大会，東京，2022.9.8-11.
- 125) 佐藤研一郎、小林潤平、鈴木宏幸、小川将、松永博子。健常高齢者の読み過程における眼球運動に関する解析：読み速度と認知・心理・生活機能評価検査との関連。2022年日本認知症学会・老年精神医学会合同学会。東京，2022.11.25-27.
- 126) 小林潤平、鈴木宏幸、佐藤研一郎、小川将、松永博子。健常高齢者の読み過程における眼球運動に関する解析：若年者との比較。2022年日本認知症学会・老年精神医学会合同学会。東京，2022.11.25-27.
- 127) 高橋佳史・佐藤研一郎・小川将・山城大地・李岩・長大介・高橋知也・鈴木宏幸。シニアは絵本の読み聞かせの訓練によって記憶のモニタリングが向上する～シニアの社会参加を目的としたRCT介入研究～。第86回日本心理学会大会，東京，2022.9.8-11.
- 128) 雛倉圭吾、山城大地、小川将、長大介、飯塚あい、古谷友希、鈴木宏幸。地域在住高齢者における座位行動の多寡と認知機能との関連-パソコン、スマートフォンの使用頻度を考慮した検討-埼玉県理学療法士学会，埼玉，2023.1.22.
- 129) 井藤佳恵、宮前史子、山下真里。小規模多機能事業所における認知症高齢者のエンドオブライフケア：職員は看取りに向かって何を準備しているのか。第23回認知症ケア学会(Web開催)。示説。R4.6.18-10.31.
- 130) 山下真里、加藤真衣、川上ひろみ、古川萌、北村伸、山崎明子。認知症への気づき・相談が遅れたケースの質的分析：受診前支援の検討。第23回認知症ケア学会(Web開催)。示説。R4.6.18-19.
- 131) 山下真里、清野諭、森裕樹、横山友里、小林江里香、服部真治、藤原佳典。COVID-19流行以前と比較した社会活動の実施状況と孤独感の関連。第64回老年社会科学会(桜美林大学：東京)。示説。R4.7.2-3.
- 132) 山下真里、阿部巧、藤原佳典、稲垣宏樹、笹井浩行、河合恒、石崎達郎、大淵修一、栗田主一、鳥羽研二、IRIDE Cohort Study investigators。地域在

- 住高齢者における2年後の認知機能低下の関連要因：IRIDE Cohort Study. 第11回日本認知症予防学会学術集会（福岡国際会議場：福岡）. 口頭. R4. 9. 23-25.
- 133) 山下真里. 高齢者支援としての心理臨床の実践：診断後の本人・家族支援. 第41回日本心理臨床学会（WEB開催）. シンポジウム. R4. 9. 25.
- 134) 山下真里、清野諭、野藤悠、阿部巧、菅原康宏、成田美紀、秦俊貴、北村明彦、新開省二、藤原佳典. 社会活動の選択に関連する性格特性：活動種類別の検討. 第81回日本公衆衛生学会総会（YCC 県民文化ホール、ハイブリッド開催：山梨）. 示説. R4. 10. 7-9.
- 135) 山下真里、加藤真衣、川上ひろみ、清水恒三朗、窪田裕子、上原嘉子、川西智也、扇澤史子、多賀努、川窪貴代、井藤佳恵、北村伸、山崎明子. COVID-19 流行前後の認知症疾患医療センターにおける電話相談ニーズの変化：その1. 第37回日本老年精神医学会（東京国際フォーラム：東京）. R4. 11. 25-26.
- 136) 清水恒三朗、山下真里、加藤真衣、川上ひろみ、清水恒三朗、窪田裕子、上原嘉子、川西智也、扇澤史子、多賀努、井藤佳恵、北村伸、山崎明子. COVID-19 流行前後の認知症疾患医療センターにおける電話相談ニーズの変化：その2. 第37回日本老年精神医学会（東京国際フォーラム：東京）. R4. 11. 25-26.
- 137) 山下真里、川窪貴代、高橋知也、松永博子、津田修治、相良友哉、藤田幸司、山城大地、藤平杏子、小川将、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典. 絵本読み聞かせボランティアの負担感に関する研究（その1）：負担感と活動参加理由との関連～REPRINTS 研究より. 第17回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）. 示説. R4. 11. 12-13.
- 138) 川窪貴代、山下真里、高橋知也、松永博子、津田修治、相良友哉、藤田幸司、山城大地、藤平杏子、小川将、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典. 絵本読み聞かせボランティアの負担感に関する研究（その2）：負担内容の質的分析～REPRINTS 研究より. 第17回日本応用老年学会大会（九州産業大学：福岡）. 示説. R4. 11. 12-13.
- 139) 山下真里. 軽度認知障害患者を対象とした集団・多因子介入プログラムにおけるCBTの活用. 第22回認知療法・認知行動療法学会（高島屋日本橋ホール：東京）. シンポジウム. R4. 11. 11-13.
- 140) 佐久間尚子、稲垣宏樹、宮前史子、枝広あや子、杉山美香、宇良千秋、山下真里、本川佳子、白部麻樹、岩崎正則、小島成実、大須賀洋祐、笹井浩行、平野浩彦、岡村毅、栗田主一. 都市に暮らす高齢者の日常生活行動頻度の基礎的研究：板橋健康長寿縦断研究. 第37回日本老年精神医学会（東京国際フォーラム：東京）. 示説. R4. 11. 25-27
- 141) 2023 G7 広島サミットレガシーイベント. （2023年5月28日）広島. 認知症を考える～共生社会とイノベーションを日本から～ 櫻井孝

- 142) IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 .yokohama. (2023. 6. 12~14) . June 12, 2023 (発表) . The Japan-multimodal intervention trial for prevention of dementia (J-MINT): a multicenter randomized control trial. Sugimoto T, Arai H, Sakurai T, On behalf of the J-MINT study group.
- 143) IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023. Yokohama. (2023. 6. 12~14) . Sponsored Symposium Sampo Holdings, Inc. Japan-multimodal intervention trial for prevention of dementia. June 14, 2023, (座長・発表). Multifactorial Intervention Study for Elderly People in Tamba City with Dementia Risk Factors (J-MINT PRIME Tamba Study) Sakurai T.
- 144) 第 65 回日本老年医学会学術集会. (2023. 6. 16~18) 横浜 6 月 18 日 (座長) シンポジウム 認知症予防戦略: 非薬物治療の最新知見と社会実装へ 向けた産学官連携を考える 櫻井 孝
- 145) 第 12 回日本認知症予防学会学術集会. (2023. 9. 15~17) 新潟. 9 月 15 日 シンポジウム 5 演者 MCI の非薬物療法 ~J-MINT 研究のエビデンス~ 櫻井 孝, 荒井秀典
- 146) 第 12 回日本認知症予防学会学術集会. (2023. 9. 15~17) 新潟. 9 月 16 日 シンポジウム 8 「エビデンス委員会報告」 座長・演者 高齢者糖尿病における認知症予防を目指した多因子介入研究 櫻井孝
- 147) 19th European Union Geriatric Medicine Society (2023. 9. 20-22) Helsinki. 2023. 9. 20. The Japan-multimodal intervention trial for prevention of dementia (J-MINT): a multi-center, randomized, 18-month controlled trial. Sakurai T, Arai H.
- Independent Ageing 2023 Convention (2023. 10. 13~10. 15) 2023. 10. 15 愛知
- 148) Innovation in Dementia Prevention and Care. Takashi Sakurai.
- 149) 7th NCGG - ICAH - TMIG International Joint Symposium (2023. 10. 17~10. 18) 東京 2023. 10. 17 Keynote Session : Recent Activity of Study on Dementia. Takashi Sakurai (NCGG)
- 150) 島田裕之. 予防シンポジウム 1 「介護予防の来し方行く末」 認知症予防のこれから. 第 10 回日本予防理学療法学会学術大会, 2023 年 10 月 28 日, 函館市.
- 151) 島田裕之. シンポジウム 48 「生活習慣介入による AD 予防のエビデンス」 身体活動による認知症予防のエビデンスと今後の展望. 第 41 回日本認知症学会学術集会・第 37 回日本老年精神医学会, 2022 年 11 月 27 日, 東京都(ハイブリッド開催).
- 152) Osawa A, Maeshima S, Kamiya M, Ueda I, Itoh N. Holistic Physio-Cognitive Rehabilitation: Characteristics of Patients and Family Caregivers Rehabilitated for the Prevention and Progression of Mild Cognitive Impairment and Dementia. IAGG Asia/Oceania

- Regional Congress 2023. 2023. 6. 12-14, Yokohama
- 153) Osawa A, Maeshima S, Yoshimura T. Opinions of MCI/Dementia patients and their family caregivers about undergoing a detailed evaluation. AD/PD™ 2024 International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases and related neurological disorders. 2024. 3. 5-9, Lisbon
- 154) Aya Seike, Sayaka Takeuchi, Keiko Hara, Yoko Kajino, Yumi Shigesada, Shigemi Nanpo, Chiharu Moriyama, Mami Shoji, Kumiko Nagai, Mami Yoshioka, Akinori Takeda, Takashi Sakurai, Tuneichi Kozaki, Hidenori Arai, and Kenji Toba. A study on emotional support for the elderly using chat-bots with artificial intelligence -Verification of the characteristics of non-task-oriented dialogue for elderly people. IAGG-Asia Oceania Regional Congress2023. (横浜市)
- 155) 清家理 エビデンスに基づく認知症共生社会づくり：お笑いでつながる認知症を有する人と若者世代。立命館大学スポーツ健康科学部総合研究所シンポジウム。2024. 1. 29 (滋賀県草津市)
- 156) Fujiwara Y, Takahashi T, Ogawa S, Yamashita M, Fujihira K, Matsunaga H, Fujita K, Murayama H, Suzuki H. The effect of negative attitudes towards activities on mental health status among elderly volunteers. The Gerontological Society of America 2023 Annual Scientific Meeting, Tampa, 2023. 11. 8-12.
- 157) 藤原佳典, 高橋知也, 藤平杏子, 松永博子, 相良友哉, 藤田幸司, 山下真里, 川窪貴代, 村山洋史, 鈴木宏幸. ボランティア活動への満足度・負担感が精神的健康度に及ぼす影響：REPRINTS 研究より。第82回日本公衆衛生学会総会, 筑波, 2023. 10. 31-11. 2.
- 158) Yokoyama Y, Seino S, Hata T, Abe T, Nofuji Y, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Association between changes in dietary variety and depressive symptoms in community-dwelling older adults. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023. Yokoyama, Japan. Poster. 2023. 6. 12-14.
- 159) Hata T, Seino S, Yokoyama Y, Abe T, Nofuji Y, Narita M, Taniguchi Y, Amano H, Nishi N, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Impact of dietary variety on changes in nutritional biomarkers among community-dwelling older adults. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023. Yokoyama, Japan. Poster. 2023. 6. 12-14.
- 160) Ozone Y, Narita M, Yokoyama Y, Fujiwara Y, Kitamura A, Shinkai S. Food Group Intake using 4 Food Groups Scoring Method and Frailty in Community-Dwelling Older Japanese: A Cross-Sectional Study. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023. Yokohama, Japan. Poster. 2023. 6. 12-

- 14.
- 161) Nofuji Y, Seino S, Abe T, Yokoyama Y, Narita M, Murayama H, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Effects of a community-based frailty-preventing intervention on dementia in older adults in rural Japan: A quasi-experimental study using propensity score matching. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 . PACIFICO Yokohama NORTH, Kanagawa, Japan. Poster. 2023. 6. 12-14.
- 162) Kaneko A, Sugaya A, Tanabe A, Ozone Y, Akao L, Narita M, Yokoyama Y, Kitamura A , Fujiwara Y, Shinkai S. Characteristics of Nutritional Intake in Older Persons with Mild Cognitive Impairment. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023. Yokohama, Japan. Poster. 2023. 6. 12-14.
- 163) 横山友里、清野諭、秦俊貴、小島みさお、倉岡正高、植田拓也、小宮山恵美、森裕樹、山中信、谷出敦子、小林江里香、藤原佳典. 大都市在住高齢者における地域レベルの共食割合と個人の食品摂取の多様性との関連. 第 82 回日本公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）. 示説. R5. 10. 31-11. 2.
- 164) 秦俊貴、清野諭、横山友里、成田美紀、新開省二、北村明彦、藤原佳典. 都市部在住高齢者における食品摂取の多様性と 4 年後のフレイルとの関連. 第 70 回日本栄養改善学会学術総会（名古屋国際会議場：愛知）. 口演. R5. 9. 1-3.
- 165) 秦俊貴、森裕樹、清野諭、野藤悠、植田拓也、藤原佳典. 通いの場のフレイル予防機能強化を目的とした「ちょい足し™」プログラム研修の普及と展開：都内自治体での取り組みの評価. 第 18 回日本応用老年学会大会（大阪大学：大阪）. 口演. R5. 10. 28-29.
- 166) 小宮山恵美、清野諭、横山友里、小島みさお、植田拓也、倉岡正高、森裕樹、山中信、谷出敦子、秦俊貴、小林江里香、藤原佳典. 大都市在住高齢者におけるコロナ禍の健康に対する意識変容とその関連要因. 第 18 回日本応用老年学会大会（大阪大学：大阪）. 示説. R5. 10. 28-29.
- 167) 赤尾瑠琉、大曾根由実、金子絢美、秦俊貴、成田美紀、渡邊慎二、古谷千寿子、清野諭、藤原佳典、新開省二. オンラインアプリ『バランス日記』を用いたフレイル予防の実証研究：前期介入群における実行可能性評価. 第 18 回日本応用老年学会大会（大阪大学：大阪）. 口演. R5. 10. 28-29.
- 168) 谷出敦子、清野諭、横山友里、小島みさお、倉岡正高、植田拓也、森裕樹、秦俊貴、山中信、藤原佳典. 地域在住高齢者における地域レベルの社会参加と精神的健康との関連：横断的マルチレベル分析. 第 10 回日本予防理学療法学会学術大会. 口演. R5. 10. 28-29.
- 169) 秦俊貴、清野諭、横山友里、遠峰結衣、新開省二、北村明彦、藤原佳典. 食品摂取の多様性のチェック経験と食品摂取多様性スコアの変化：地域レベルでの検討. 第 82 回公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）. 示説. R5. 10. 31-11. 2.

- 170) 森裕樹、植田拓也、清野諭、秦俊貴、藤原佳典。フレイル予防を目的とする専門職向けプログラムの実施と評価。第 82 回公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）。示説。R5. 10. 31-11. 2.
- 171) 倉岡正高、清野諭、横山友里、小島みさお、小宮山恵美、森裕樹、山中信、谷出敦子、秦俊貴、植田拓也、藤原佳典。大都市高齢者の個人・地域レベルの世代間交流と個人の精神的健康度の関連。第 82 回公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）。示説。R5. 10. 31-11. 2.
- 172) 山中信、清野諭、横山友里、小島みさお、倉岡正高、森裕樹、小宮山恵美、谷出敦子、秦俊貴、植田拓也、小林江里香、藤原佳典。所得別にみた地域在住高齢者における就労状況と精神的健康度の関連。第 82 回公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）。示説。R5. 10. 31-11. 2.
- 173) 金子絢美、大曾根由実、赤尾瑠琉、成田美紀、秦俊貴、藤原佳典、新開省二。BDHQ を用いた高齢者の栄養疫学研究 (2) フレイルおよび MCI と関連する食品群と栄養素。第 82 回公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）。示説。R5. 10. 31-11. 2.
- 174) 赤尾瑠琉、大曾根由実、金子絢美、秦俊貴、成田美紀、清野諭、藤原佳典、新開省二。オンラインアプリ『バランス日記』を用いたフレイル予防の実証試験。第 82 回公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）。示説。R5. 10. 31-11. 2.
- 175) 秦俊貴、清野諭、横山友里、成田美紀、新開省二、北村明彦、藤原佳典。都市部在住高齢者における食品摂取の多様性と総死亡との関連。第 34 回日本疫学会学術総会（びわ湖大津プリンスホテル他：滋賀）。示説。R6. 1. 31-2. 2.
- 176) 成田美紀、大曾根由実、新開省二、横山友里、阿部巧、野藤悠、秦俊貴、村山洋史、藤原佳典。COVID-19 流行前後における高齢者の食生活 (1) 食品摂取多様性と関連要因の変化。第 82 回公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：筑波）。示説。R5. 10. 31-11. 2.
- 177) 大曾根由実、成田美紀、新開省二、横山友里、野藤悠、阿部巧、秦俊貴、村山洋史、藤原佳典。COVID-19 流行前後における高齢者の食生活 (2) 食品摂取多様性の変化をもたらす要因。第 82 回公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：筑波）。示説。R5. 10. 31-11. 2.
- 178) 小島みさお、清野諭、横山友里、倉岡正高、植田拓也、森裕樹、小宮山恵美、山中信、谷出敦子、秦俊貴、小林江里香、藤原佳典。大都市高齢者における社会参加割合とフレイル該当割合に関する地域相関分析。第 18 回日本応用老年学会大会（大阪大学 豊中キャンパス 大阪大学会館：大阪）。示説。R5. 10. 28-29.
- 179) 小島みさお、清野諭、横山友里、倉岡正高、森裕樹、小宮山恵美、谷出敦子、山中信、秦俊貴、植田拓也、小林江里香、藤原佳典。大都市高齢者の基本チェックリストによる性・年齢・要支援認定有無別フレイル発現率。第 82 回日本公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）。示説。R5. 10. 31-11. 2.

- 180) 野藤悠、吉田由佳、森知美、阿部巧、横山友里、清野諭、藤原佳典、村山洋史. 介護予防活動の認知に影響する要因の検討：養父コホート研究. 第 82 回日本公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）. 示説. R5. 10. 31-11. 2.
- 181) 野藤悠、清野諭、横山友里、阿部巧、村山洋史、藤原佳典. 介護予防の 4 要素（運動・栄養・社会参加・口腔ケア）の充足数と要介護認定との関連性. 第 65 回日本老年社会科学会（パシフィコ横浜 ノース：神奈川）. 示説. R5. 6. 17-18.
- 182) 野藤悠、横山友里、清野諭、阿部巧、吉田由佳、谷垣知美、村山洋史、藤原佳典. フレイル予防の 3 要素（運動・栄養・社会参加）の充足数と介護費との関連性. 第 23 回日本健康支援学会学術大会（福岡工業大学：福岡）. 口演. R5. 3. 4-5.
- 183) 成田美紀、大曾根由実、新開省二、阿部巧、横山友里、野藤悠、秦俊貴、北村明彦、藤原佳典、村山洋史. 地域在住高齢者における新型コロナウイルス感染症 流行直後の生活行動の変化と食品摂取多様性との関連. 第 18 回日本応用老年学会大会（大阪大学：大阪）. 口演. R5. 10. 28-29.
- 184) 藤田幸司、横山友里、西真理子、藤原佳典. 高齢者のボランティア活動の継続と主観的ウェルビーイングとの関連. 第 65 回日本老年社会科学会（パシフィコ横浜 ノース：神奈川）. 示説. R5. 6. 17-18.
- 185) 藤田幸司、横山友里、西真理子、松永博子、藤原佳典. 高齢者におけるボランティア活動頻度、満足度と主観的ウェルビーイングとの関連. 第 82 回日本公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）. 口演. R5. 10. 31-11. 2.
- 186) 清野諭、横山友里、阿部巧、野藤悠、谷口優、村山洋史、天野秀紀、新開省二、北村明彦、藤原佳典. 地域在住高齢者のサルコペニアおよびその構成因子と死因別死亡リスク. 第 65 回日本老年医学会学術集会（パシフィコ横浜：横浜）. 口演. R5. 6. 16-18.
- 187) 早川美知、本川佳子、横山友里、大須賀洋祐、飯塚あい、豊島堅志、田村嘉章、石川譲治、藤原佳典、荒木厚. 地域在住高齢者に対する運動・栄養・社会参加の複合プログラムによる介入についての予備的検討. 第 65 回日本老年医学会学術集会（パシフィコ横浜：横浜）. 示説. R5. 6. 16-18.
- 188) 清野諭、横山友里、小島みさお、倉岡正高、森裕樹、小宮山恵美、谷出敦子、山中信、秦俊貴、植田拓也、小林江里香、藤原佳典. 大都市在住高齢者の地域レベルの社会参加と個人の身体不活動：横断的マルチレベル分析. 第 82 回公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：筑波）. 口演. R5. 10. 31-11. 2.
- 189) 阿部巧、藤原佳典、北村明彦、野藤悠、西田裕紀子、牧迫飛雄馬、鄭丞媛、大塚礼、鈴木隆雄、ILSA-J Group. JST 版活動能力指標との関連性における身体機能と認知機能の差異：長寿コホートの総合的研究（ILSA-J）. 第 65 回日本老年医学会学術集会（パシフィコ横浜 ノース・アネックス：神奈川）. 口演. R5. 6. 16-18.

- 190) 阿部巧、山城大地、山下真里、植田拓也、鈴木宏幸、藤原佳典、栗田圭一、鳥羽研二、IRIDE Cohort Study investigators. 地域包括支援センターにおける認知機能評価の実態把握と認知機能低下者スクリーニングモデルの適用可能性：IRIDE Cohort Study. 第12回日本認知症予防学会学術集会（朱鷺メッセ：新潟）. 口演. R5.9.15-17.
- 191) 阿部巧、野藤悠、横山友里、清野諭、藤原佳典、村山洋史. 地域在住高齢者における外出時の手段別移動時間とフレイルとの関連性. 第82回日本公衆衛生学会総会（つくば国際会議場：茨城）. 示説. R5.10.31-11.2.
- 192) 倉岡正高、清野諭、山下真里、野藤悠、村山洋史、藤原佳典. 東日本大震災被災地における世代間交流と精神的健康度の関連. 日本世代間交流学会第14回全国大会（京都橘大学：京都府）. 示説. R5.12.2.
- 193) 倉岡正高、清野諭、横山友里、小島みさお、森裕樹、植田拓也、藤原佳典. 一人暮らし高齢男性の困り事の相談相手と他者と食事をする機会の関連の検証. 日本老年社会学会第64回大会（パシフィコ横浜：神奈川県）. 示説. R5.6.17-18.”
- 194) 古谷友希、阿部巧、小川将、山城大地、野藤悠、横山友里、清野諭、天野秀紀、藤原佳典、村山洋史. 地域在住高齢者におけるBMIとba-PWVとの関連性. 第10回日本予防理学療法学会学術大会（函館市民会館・函館アリーナ：北海道）. 口演. R5.10.28-29.
- 195) 大須賀洋祐、野藤悠、清野諭、丸尾和司、岡敬之、新開省二、藤原佳典、笹井浩行. 高齢就労者に対する多要素介入の安全性、受容性、潜在的有効性：予備的ランダム化比較試験. 第23回日本健康支援学会学術大会（福岡工業大学：福岡）. 口演. R5.3.4-5.”
- 196) 野藤悠、横山友里、清野諭、阿部巧、吉田由佳、谷垣知美、村山洋史、藤原佳典. フレイル予防の3要素（運動・栄養・社会参加）の充足数と介護費との関連性. 第24回日本健康支援学会年次学術大会（福岡工業大学：福岡）. 示説. R5.3.4-5.
- 197) 清野諭、横山友里、阿部巧、野藤悠、谷口優、村山洋史、天野秀紀、新開省二、北村明彦、藤原佳典. 地域在住高齢者のサルコペニアと死因別死亡リスク. 第65回日本老年医学会学術集会（パシフィコ横浜ノース・アネックス：神奈川県）. 示説. R5.6.16-18.
- 198) 野藤悠、清野諭、横山友里、阿部巧、村山洋史、藤原佳典. 介護予防の4要素（運動・栄養・社会参加・口腔ケア）の充足数と要介護認定との関連性. 第65回日本老年社会学会大会（パシフィコ横浜ノース・アネックス：神奈川県）. 示説. R5.6.17-18.
- 199) 松永博子、高橋知也、相良友哉、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典. 中高齢者就労支援施設における支援課題に関する研究. 第65回日本老年社会学会大会（パシフィコ横浜ノース・アネックス：神奈川県）. 示説. R5.6.17-18.
- 200) 倉岡正高、清野諭、山下真里、野藤悠、村山洋史、藤原佳典. 東日本大震災被災地における世代間交流と精神的健康



- 度の関連. 日本世代間交流学会第 14 回全国大会 (京都橘大学: 京都). 示説. R5. 12. 2.
- 201) 相良友哉、高橋知也、松永博子、藤平杏子、藤田幸司、山下真理、川窪貴代、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典. ボランティア団体の役員は活動負担感が増大するか?: REPRINTS Study より. 日本世代間交流学会第 14 回全国大会 (京都橘大学: 京都). 示説. R5. 12. 2.
- 202) Suzuki H, Takahashi T, Ogawa S, Iizuka A, Sato K, Hinakura K, Cho D, Li Y, Furuya T, Takahashi Y, Yamashiro D, Shimizu Y, Fujihira K, Haga T, Kobayashi M, Fujiwara Y. Social implementation of the cognitive intervention program through a training for picture book reading: examination of differences in intervention effects by age group. The 12th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, Yokohama, 2023. 6. 12-14.
- 203) Suzuki H. Intervention programs for the prevention of cognitive decline based on cognitive reserve: lifelong learning programs. Dementia 5: Non-pharmacological intervention for dementia. The 12th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, Yokohama, 2023. 6. 12-14.
- 204) 鈴木宏幸, 高橋知也, 小川将, 長大介, 飯塚あい, 山城大地. 地域在住中高年者を対象とした認知症共生尺度作成の試み. 第65回日本老年社会学会大会, 横浜, 2023. 6. 17-18
- 205) 鈴木宏幸, 山城大地, 小川将, 長大介, 飯塚あい, 鈴木宣子, 田中信太郎. 軽度認知障害 (MCI) スクリーニング検査モデル事業参加者における認知症共生意識の関連要因 (1) 生活機能に関する検討. 第12回日本認知症予防学会学術集会, 新潟, 2023. 9. 15-17.
- 206) 鈴木宏幸, 山城大地, 小川将, 長大介, 飯塚あい, 鈴木宣子. 軽度認知障害 (MCI) 検査モデル事業への参加による認知症共生意識への影響. 第82回日本公衆衛生学会総会, 筑波, 2023. 10. 31-11. 2.
- 207) 鈴木宏幸, 松永博子, 伊藤晃碧, 大辻みずき, 李岩, 小川敬之, 藤原佳典. MCI・軽度認知症の人を対象とした趣味講座における有償化の影響: 前後比較試験による介入効果と継続性に関する検討. 第18回日本応用老年学会大会, 大阪, 2023. 10. 28-29.
- 208) 山下真里, 加藤真衣, 川西智也, 扇澤史子. 認知症の人とその家族に対する診断前・診断後支援: 電話相談の活用に関する検討. 第 42 回日本心理臨床学会 (パシフィコ横浜: 横浜). 示説. R5. 9. 2.
- 209) 山下真里. フレイルにおける心理的アプローチ: 心理職の役割. 第 23 回抗加齢医学会総会. シンポジウム. R5. 6. 11.
- 210) 清水恒三朗, 山下真里, 原祐子. MCI 高齢者の健康行動に焦点化した認知行動モデルに基づく心理プログラムの取り組みについて. 第 42 回日本心理臨床学会 (パシフィコ横浜: 横浜). 示説. R5. 9. 2.

- 211) 相良友哉、藤田幸司、山城大地、森裕樹、植田拓也、倉岡正高、清野諭、野藤悠、山下真里、阿部巧、藤原佳典.  
高齢者の居場所の類型ごとの特徴②—  
居場所の類型と精神的健康度との関連.  
第 82 回日本公衆衛生学会総会.  
R5. 10. 31-11. 2.
- 212) 藤原佳典、高橋知也、藤平杏子、松永博子、相良友哉、藤田幸司、山下真里、川窪貴代、村山洋史、鈴木宏幸.  
シニアボランティアにおける活動への満足度・負担感が精神的健康度に及ぼす影響：REPRINTS-ex 研究より. 第 82 回日本公衆衛生学会総会. R5. 10. 31-11. 2.
- 213) 山城大地、山下真里、川窪貴代、高橋知也、松永博子、相良友哉、藤田幸司、藤平杏子、小川将、登藤直弥、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典. 高齢期のボランティア活動に関する負担感尺度作成の試み. 第 18 回日本応用老年学会大会.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

- 1) Petit 笑店 NO.6578305 (商標)  
2022. 8

- 2) Petit 茶論 No.6607582 (商標)  
2022. 8

##### 2. 実用新案登録

該当なし

##### 3. その他

該当なし

表 1. 参加者、家族および補助スタッフから寄せられた質問および回答（一部抜粋）

質問内容	該当箇所	質問者	コーディング※	回答・対応
「認知症」と「もの忘れ」の違いが分かりづらい	手引き Q1	参加者	表現上の不備	本文中に具体的な例を追加
グラフの縦軸が何を表しているのかわからない	手引き Q4	参加者	表現上の不備	1. グラフの縦軸を変更 2. 本文の参照箇所を明示
バランスの良い食事の事例をお聞きしたい	手引き Q14	参加者	補足説明の希望	例となるイラストを追加
認知症予防に必要な社会活動の定義がわかりにくい	手引き Q17、生活ノート	参加者、補助スタッフ	表現上の不備、ユーザビリティ	1. 手引き該当部分の Q and A の文章を変更 2. 生活ノートの列名を変更

質問は「表現上の不備」、「補足説明の希望」、「ユーザビリティ」、「誤字脱字」のいずれかにコーディング。

表 2. 介入研究への参加者の基本特性

登録時情報	愛知フィールド (n=20)	神奈川フィールド (n=18)
年齢 (歳)	79.96±3.00	77.78±5.24
男性	10 (50%)	6 (33%)
教育年数 (年)	11.85±2.21	13.44±1.92
MOCA-J 合計得点 (点)	20.05±2.95	23.72±1.23
MMSE 合計得点 (点)	26.10±2.29	27.89±1.37

ベースラインデータ	愛知フィールド (n=20)	神奈川フィールド (n=18)
結婚の有無		
結婚し配偶者も健在	16 (88.89%)	10 (55.6%)
死別した	2 (11.11%)	7 (38.9%)
離婚した	0 (0%)	0 (0%)
未婚	0 (0%)	1 (5.6%)
その他	0 (0%)	0 (0%)
同居の有無		
子供または親と同居	8 (44.44%)	1 (5.6%)
配偶者と二人暮らし	8 (44.44%)	10 (55.6%)
独り暮らし	2 (11.11%)	7 (38.9%)
その他	0 (0%)	0 (0%)
経済状況		
子供や他人に援助するくらい余裕がある	2 (11.11%)	4 (22.2%)
自分たちの生活だけは困らない	16 (88.89%)	13 (72.2%)
一部援助してもらい必要がある	0 (0%)	1 (5.6%)
全面的に援助してもらい必要がある	0 (0%)	0 (0%)
世帯年収		
200 万円未満	6 (33.33%)	5 (27.8%)
200~399 万円	11 (61.11%)	8 (44.4%)

400～599 万円	1 (5.56%)	3 (16.7%)
600～799 万円	0 (0%)	1 (5.6%)
800～999 万円	0 (0%)	0 (0%)
1000 万円以上	0 (0%)	0 (0%)
飲酒		
毎日飲む	6 (33.33%)	1 (5.6%)
ときどき飲む	3 (16.57%)	5 (27.8%)
ほとんど飲まない (飲めない)	9 (50.00%)	12 (66.7%)
喫煙		
吸わない	15 (83.33%)	16 (88.9%)
過去に吸っていたが今はやめた	3 (16.67%)	2 (11.1%)
吸う (20 本/日まで)	0 (0%)	0 (0%)
1 日 20 本以上吸う	0 (0%)	0 (0%)
体重減少があった	2 (11.11%)	4 (22.2%)
疲労感があった	3 (16.67%)	4 (22.2%)
軽い運動もしくは定期的な運動をしている	13 (72.22%)	7 (38.9%)
Barthel Index (点)	100.00±0.00	99.7±1.18
IADL_男 (点)	4.90±0.32	5.00±0.00
IADL_女 (点)	7.75±0.46	7.75±0.00
食多様性スコア (点)	8.78±3.08	9.28±3.82
MNA (点)	12.44±2.53	11.56±1.38
食欲 (点)	30.28±3.29	31.50±2.57
Geriatric Depression Scale (点)	3.72±3.29	4.39±3.38
転倒スコア (点)	7.78±3.37	6.44±2.66
LSNS (点)	15.11±7.25	13.22±4.94
身長 (cm)	155.22±9.48	155.73±8.39
体重 (kg)	56.41±10.00	49.00±9.50
収縮時血圧 (mmHg)	148.74±22.50	143.61±23.75
拡張期血圧 (mmHg)	86.21±17.69	80.89±13.14
脈拍 (bpm)	74.05±19.91	80.22±9.69
握力 (kg)	24.99±7.38	23.66±4.82
歩行速度 (m/s)	1.23±0.22	1.43±0.25
BMI (kg/m <sup>2</sup> )	23.32±3.04	20.08±2.47

疾患数_中央値 (個)	1.00	1.00
薬剤数_中央値 (個)	2.50	3.83
自己効力感 (点)	8.44 ± 4.37	9.78 ± 3.35
WHO-5		
合計値	17.3 ± 5.10	17.67 ± 6.20
精神的健康低群 (≦12)	1 (5.56%)	4 (22.2%)
J-DAS		
合計値	31.8 ± 8.4	29.28 ± 6.26
Executive Subscale	8.3 ± 3.9	6.83 ± 3.42
Emotional Subscale	11.4 ± 2.3	11.61 ± 2.09
Behavioral/Cognitive Initiation Subscale	12.1 ± 5.4	10.83 ± 5.17

---

特に記載のない場合を除き、数値は症例数(パーセンテージ)、もしくは平均値±標準偏差で示す。

表 3. 有害事象の一覧

発現日	有害事象名	CTCAE V5.0 SOC 日本語	CTCAE V5.0 TERM 日本語	GRA DE	CODE	内容	本研究との 因果関係
2022/9/27	腰椎圧迫骨折	傷害、中毒および処置合併症	脊椎骨折	2	10041569	2022/9/24 自宅でエアマットを用いた運動を実施。9/26 腰部に疼痛が出現し、当院整形外科を受診。レントゲン検査の結果、腰椎圧迫骨折の疑いと診断された。9/28 自宅療養中。長期の療養が必要なため、研究中止の希望。	なし
2023/4/13	左鼠経ヘルニア	胃腸障害		3		2023/1 頃に左鼠経部に症状が出現。4/12 刈谷豊田総合病院へ入院。4/13 腹腔鏡下手術施行。4/14 退院。	なし
2023/8/15	聴神経腫瘍	良性、悪性および詳細不明の新生物（嚢胞およびポリープを含む）	良性、悪性および詳細不明の新生物（嚢胞およびポリープを含む）	3	10029104	2021/8 左耳の聞こえが悪くなり、当院耳鼻科にて聴神経腫瘍と診断される。2022/10 当院の紹介にて愛知医科大学病院を受診。2023/7 検査の結果、予想外に腫大しておりガンマナイフ治療をすることとなる。愛知医科大学病院の紹介にて大隈病院を受診。2023/8/14 入院、15 ガンマナイフ照射、16 退院。	なし
2022/11/16	大腿骨骨折	傷害、中毒および処置合併症	股関節部骨折	3	10020100	2022/11/16 散歩に出かけたところ転倒。救急車を呼び入院。その後、大腿骨骨折であることがわかり手術する。2022/12/5 自宅療養を開始。介護保険の申請をする。	なし
2022/12/1	膠原病	免疫系障害		3		2022/11/16 脊柱管狭窄症の症状が悪化にて体の動かなさを自覚。2022/12/1 に 3~4 週間の入院が決まり、入院。12/22 退院。	なし

表 4. 認知機能と副次評価項目の 12 か月間の変化

	初回評価時 (N=37)		12 ヶ月後 (N=34)		p 値※
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
MoCA-J 合計得点	21.9	2.9	23.3	3.8	0.007
歩行速度(m/s)	1.37	0.28	1.34	0.24	0.628
平均握力(kg/m <sup>2</sup> )	23.82	6.13	24.47	5.04	0.550
BMI(kg/m <sup>2</sup> )	21.74	3.19	22.26	2.97	0.179
食物多様性	10.1	2.1	10.6	2.3	0.095
抑うつ(GDS-15)	4.1	3.3	3.1	2.8	0.075

※1 標本 t 検定の p 値を記載



表 5.6 カ月時点と 12 か月時点における教室参加満足度

	6 か月(N=38)		12 か月(N=37)	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
全般的な満足度	3.65	0.53	3.68	0.47
運動に対する満足度	3.62	0.54	3.57	0.64
二重課題運動に対する満足度	3.57	0.55	3.65	0.53
手引きの読み合わせに対する満足度	3.41	0.72	3.24	0.63
グループ CBT に対する満足度	3.27	0.64	3.11	0.73
配布物に対する満足度	3.69	0.46	3.62	0.54

図1. 手引きの第2版（抜粋）

Q 14 食事内容

Q 14 食事内容

## Q14 食事内容

**Q** どのような内容の食事をとるとMCIの進行を防ぐことができますか？

**A** 認知症の進行を抑制する食べ物というのは、今のところ科学的に証明されていません。しかし、量・質ともに満たされたバランスの良い食事を選択することが好ましく、できるだけ色々な食品を摂取するように心がけることが重要です。



● 解説ポイント

認知症予防にいい食べ物は「いろいろな食べ物」だゾク

たくさんの種類の食品を食べることで認知機能が悪化する危険性が減少



図表: 多くの種類の食品を食べることで認知機能が悪化するリスクを44%減らすことができます

① 野菜や果物、魚などを豊富に含む食事がオススメ

野菜や果物、魚などの抗酸化あるいは抗炎症作用をもつ食品や栄養素が、認知症発症予防に有効と考えられています。しかし、ビタミンEやビタミンCなどを摂取することによって認知機能が改善するという根拠は得られず、これらの栄養素を含む地中海食やMIND食（地中海食と、高血圧を予防するDASH食を組み合わせた食<sup>2)</sup>）での調査は、進行抑制効果が認められないことも報告されています。

※地中海食：魚介類やオリーブ油を使った地中海沿岸地域の伝統食。DASH食：高血圧予防のための塩分を控えめにした食事。

② 体格や体重にあわせた適切な食事量を調べよう

毎回の食事の内容を細かく記録しなくても、体格や体重を管理することで、その人に適した量の食事を摂れているかどうかを推測することができます。一定期間、体重をキープできている人は、食事で必要なエネルギー量は満たされていると考えます。低栄養予防の観点から高齢者では、若年者に比べて高めのBMI下限値(21.5kg/m<sup>2</sup>以上)が推奨されています。

③ 食事の質は主食・主菜・副菜と品目のバランスが大切

質のよい食事は、まず主食と主菜、副菜をとっているか(目安：1日2食以上)を確認します。次に色々な食品(魚・肉・卵・豆・野菜・果物・乳製品など)を摂取できているかを確認します。いろいろな食品を摂取している人(食品摂取の多様性が高い人)ほど栄養摂取状況は良好であり、認知機能低下が抑制されたことが報告されています。

主菜

肉、魚、豆腐(大豆製品)、卵を使った料理

乳製品

ヨーグルト

果物

りんご

副菜

野菜、海藻類、きのこ類を使った料理

主食

米飯、めん類、パン類


出典：国立長寿医療研究センター「健康長寿教室テキスト第2版」(P17)

38

39

図2. 生活ノートの第2版 (抜粋)

**1 週目**



星を獲って1週間の自己評価をしましょう!

☆☆☆☆  
まあまあできた    できた    よくできた

スタッフより

	月 日( )		月 日( )		月 日( )		月 日( )		月 日( )		月 日( )	
	体重	kg	体重	kg	体重	kg	体重	kg	体重	kg	体重	kg
	血圧	/ mmHg	血圧	/ mmHg	血圧	/ mmHg	血圧	/ mmHg	血圧	/ mmHg	血圧	/ mmHg
	歩数	歩	歩数	歩	歩数	歩	歩数	歩	歩数	歩	歩数	歩
身体活動	運動・スポーツ											
	家事・庭/畑仕事											
栄養	【主食】 ごはん・パン・麺											
	【主菜】 肉・魚・卵											
	【副菜】 豆/大豆製品・野菜 きのこ・芋類											
	【その他】 果物・海藻 ナッツ・乳製品											
社会活動	人と会話・交流する											
	集まりに参加 (買い物や地域の集會)											
知的活動	パズルや囲碁などの ゲーム											
	趣味の活動 (俳句、家庭演奏等)											
その他	( )											
	( )											
進捗管理	○●△で 記入しましょう											

図3. 簡易版ハンドブック（抜粋）

手引き（第2版）のQ and Aのみをまとめた。病院等で配布しやすいように手引き本体よりも一回り小さい（A5版の）中綴じ冊子とした。

## 13 食事について

**Q** 食事でMCIの進行を抑制することはできますか？

**A** はい。脳の機能維持に栄養は必須であり、食事の内容だけでなく食べる時の環境を工夫することで進行を遅らせることができます。栄養面だけでなく、食べ方にも配慮し、MCIの方がおいしく食べられる環境を考え工夫する心がけが望ましいでしょう。

楽しく食事をすると効果的だゾク



## 14 食事内容

**Q** どのような内容の食事をとるとMCIの進行を防ぐことができますか？

**A** 認知症の進行を抑制する食べ物というのは、今のところ科学的に証明されていません。

しかし、量・質ともに満たされたバランスの良い食事を選択することが好ましく、できるだけ色々な食品を摂取するように心がけることが重要です。

認知症予防に良い食べ物は「いろいろな食べ物」だゾク



図 4. web 版のハンドブック（一部のスクリーンショット）  
手引き（第 2 版）の Q and A のみをまとめた。ボタン等を配置し、インタラクティブな web サイトとした。URL: <https://www.ncgg.go.jp/dementia/mci/>

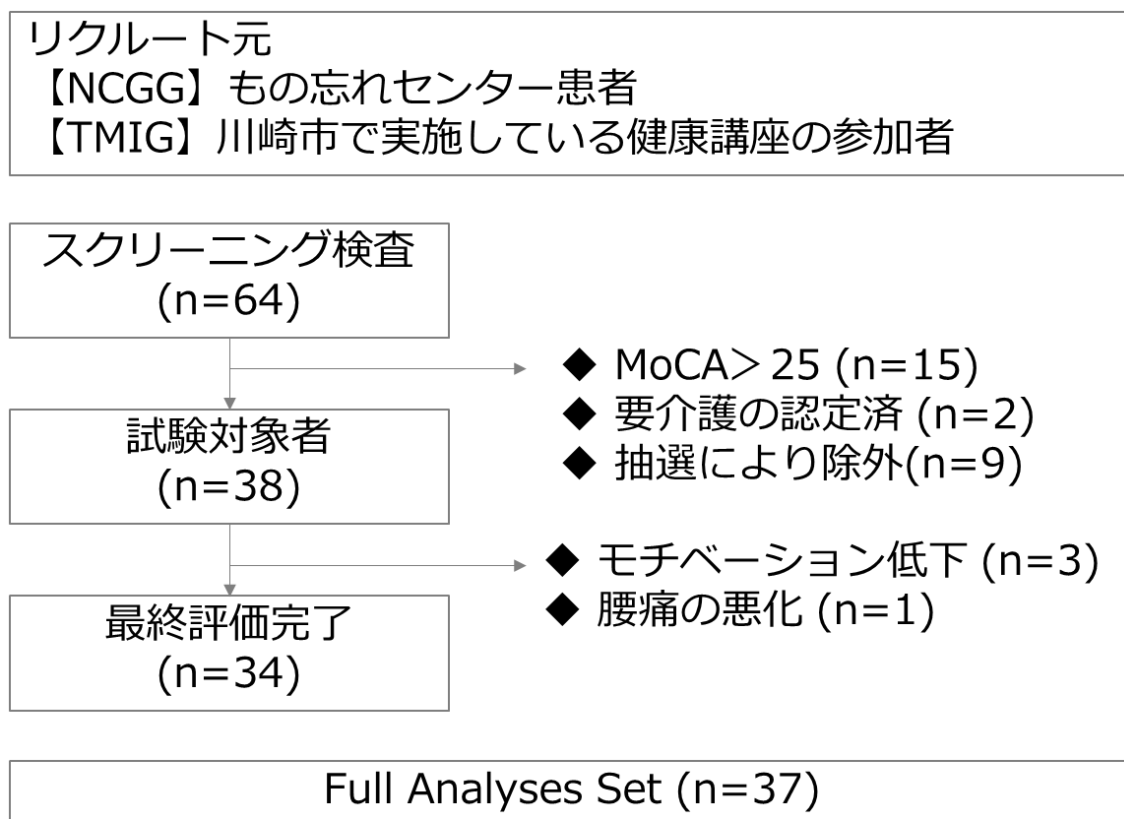


図5. アブストラクトテーブル集 (抜粋)

Q4 糖尿病			
書誌情報	対象	方法	結果
Ohara T, Doi Y, Ninomiya T, et al. Glucose tolerance status and risk of dementia in the community: the Hisayama study. <i>Neurology</i> . 2011;77(12):1126-1134. doi:10.1212/WNL.0b013e31822f0435	60 歳以上の認知症のない地域在住高齢者 1017 名。日本	目的：75g 経口ブドウ糖負荷試験で評価した耐糖能異常と認知症発症との関連を調査する。 研究デザイン：前向きコホート研究 評価：耐糖能は、75g 経口ブドウ糖負荷試験の結果に基づき WHO の基準に従って診断した。認知症の診断は DSM-III-R を用いた。 調査期間：1988 年 12 月から 2003 年 11 月。 統計解析：Cox 比例ハザードモデル	追跡期間中に 232 名 (男性 79 名、女性 153 名) が認知症を発症。このうち 105 名がアルツハイマー型認知症、65 名が脳血管性認知症、62 名がその他の認知症であった。 Cox 比例ハザードモデルの結果、糖尿病は全認知症 (HR = 1.74, 95% CI = 1.19-2.53)、アルツハイマー型認知症 (HR = 2.05, 95% CI = 1.18-3.57) の危険因子であることが示された。 また、空腹時血糖値と認知症発症との関連はみとめられなかったが、糖負荷 2 時間値を 4 段階に分けて検討すると、糖負荷 2 時間値が高いほど、全認知症 (p for trend < 0.001)、アルツハイマー型認知症 (p for trend < 0.001)、脳血管性認知症 (p for trend = 0.02) のリスクが高いことが示された。
Mattishent K, Loke YK. Bi-directional interaction between hypoglycaemia and cognitive impairment in elderly patients treated with glucose-lowering agents: a systematic review and meta-analysis. <i>Diabetes Obes Metab</i> . 2016;18(2):135-141.	2005 年から 2015 年までの 10 年間の文献で、55 歳以上の研究参加者における低血糖と認知障害または認知症との関連について検討した観察研究。	目的：低血糖が認知症の危険因子であり、認知症が低血糖の危険因子であるという双方向性の関連を検討すること。 調査期間：2005 年から 2015 年。 研究デザイン：システマティックレビューとメタアナリシス。	5 件の研究のメタ解析の結果、低血糖エピソードを経験した患者では、認知症のリスクが有意に増加することが示された (オッズ比 = 1.68, 95% CI = 1.45-1.95)。 また、認知症の人では低血糖のリスクが有意に高まることがわかった (オッズ比 = 1.61, 95% CI = 1.25-2.06)。 以上より、高齢者の認知障害と低血糖の間には双方向性の関係があることが示された。

doi:10.1111/dom.12587			
Tuligenga RH. Intensive glycaemic control and cognitive decline in patients with type 2 diabetes: a meta-analysis. <i>Endocr Connect.</i> 2015;4(2):R16-R24. doi:10.1530/EC-15-0004	2014年10月までの文献で、集中的な血糖コントロールと標準的な血糖コントロールに割り当てられた参加者の認知機能の変化率を比較した、2型糖尿病患者の無作為化対照試験(RCT)。	目的：2型糖尿病患者における認知機能低下に対する集中的な血糖コントロールと標準的な血糖コントロールの効果を比較すること。 調査期間：2014年10月まで。 研究デザイン：メタアナリシス	5つのRCTから得られた合計24,297名の患者がメタ分析に含まれた。フォローアップ期間は3.3年から6.2年であった。プール解析の結果、2型糖尿病患者において、標準的な血糖コントロールと比較して、集中的な血糖コントロールは、認知機能低下の速度を遅らせることとは関連しないことが示された(SMD=0.02、95%CI=-0.03-0.08)が、個々の研究には若干の不均質性が認められた( $I^2=68%$ , $P$ for heterogeneity=0.01)。

図 6. 参加者全体における介入フロー



FAS：一回以上の介入を行った被験者。ただし、重大な研究計画書違反（同意未取得、試験手続き上の重大な違反）の被験者は除外する。